

生まれ変わり



トム・カンター

表紙に少年時代のトム(トミー)キャンター

生まれ変わり

トム・キャンターの自伝

2020年

著作権©2020トム・キャンター全著作権所有。著作者の書面による許可なしに、この本の一部を複製または伝送することはできません。これには、電子的な手段や機械的な手段、写真複写、録音、情報の保管および取り出しシステムを含みます。

「私を変えてくれた人に捧げる」

前書き

私たちの多くは誰にも知られたくない暗い秘密を抱えています。私たちは皆、そのような秘密を隠し、それらの現実が自己イメージを脅かすときに逃げ出す傾向があります。そうすることには深刻な結果が伴います。私たちは自己に対して不誠実になり、より現実味の少ない存在となります。この結果、本当の自分のままで他人に近づくことができなくなります。認めるかどうかに関係なく、秘密があると、人は隠されたことがバレるのを恐れて、周囲と距離を置くようになります。逆に、勇気を持って謙虚に真実を明らかにしようとするなら、その人は自分自身と他者の前で本当の自分となります。

この本の目的は、不誠実さと他者との距離をもたらし秘密の有害なサイクルを断つことです。私は50年間、透明性がなく、本当の自分ではありませんでした。私は評判と自己イメージを脅かす暗い秘密を意図的に隠しました。結婚の数ヶ月前、妻から彼女が襲われ、妊娠していることを知りました。私は打ちのめされ、粉々に打ちのめされました。特に、自分を守りたかった私は、50年以上にわたりこの秘密を守り続けました。半世紀にわたり、この暗い秘密を隠していたことが、私が自分自身である自由を奪い、他人との間に距離を作りました。この本を通じて、私は

50年ぶりに自己と他者に隠していた透明性と現実を受け入れる決断をしました。この長年の旅を通じて、真実から逃げるのがどれほど重荷で閉じ込められているかを理解しました。私の願いはこの本を通して他人を手助けすることです。それは私自身がしなければならなかったことです。透明性があり、他者に寄り添える真の人間になることです。

目次

第1部:壊れた.....	1
1.「私はユダヤ人です」.....	1
2. 都市の陸軍士官学校.....	6
3.「スイスが彼を浄化するだろう」.....	9
4.「私は汚れている」.....	21
5.「シェリルが私を浄化してくれるだろう」.....	23
6. 恋に落ちて.....	27
7.「彼女はユダヤ人ではない!」(私の父).....	29
8.「私たちはユダヤ人ではない!」 (シェリルの母).....	31
9.「結婚してくれますか?」.....	32
10. 失望.....	33
11. シェリルのそばに立つ.....	34
12.「彼女を捨てろ!」(ルーチェ先生).....	36
13. 結婚.....	37
14. 両親に結婚の発表.....	41
15. 関係の幻滅.....	44
16. ユダヤ教家族サービス.....	46
17. アルバーツ先生とユダヤ病院.....	48
18. 生活の探求.....	49
19. 未知への叫び.....	52
20.「私はまだユダヤ人でしょうか?」.....	63
21. 誕生.....	66
22. 新たな始まり.....	68
23. カリフォルニアの前とオハイオの後.....	69
24. ついに見つけた.....	70

25. ついに清められた.....	78
26. 赦しを与えられ、赦すために.....	80
27. 生きる目的の再構築.....	83
28. 23とる発見.....	87
29. 汚れて清められるために.....	89
 第2部:再建.....	 92
30. サイモン・ワッサーマン.....	93
31. ラリー・ラスト.....	100

第1部:壊れたBroken

「私はユダヤ人です」

私の名前はトム・キャンターです。スキャン抗体研究室の創設者兼社長です。この会社は、私が1976年にわずか130ドルの投資で始めた小さな一車庫から成長し、現在では800人のチームメンバーを擁し、世界中で活動している企業です。私はどのように変わったのかをお話したいと思います!両親がユダヤ人である私は、典型的なロサンゼルス市のユダヤ人コミュニティに生まれました。私の祖父はリトアニアのカントロビッチラビの一族の正統派ラビであり、宗教は私の家庭に根付いていました。祖父キャントル/ラビの影響にもかかわらず、私は世俗的なユダヤ人として育ち、親の指示に従って改革派と保守派のシナゴグに通いました。それは私の選択ではなく、親がそうしろと言ったからでした。



ビバリーヒルズのエマニュエル寺院



ロサンゼルス市のシナイ寺院

私の父は、ベバリーヒルズで著名な産婦人科医/婦人科医として知られ、ストレス性尿失禁の女性手術技術を開発したことで有名でした。母親は、ヘンリー・ウィルソン・タレント・エージェンシーで働いており、ロック・ハドソン、トロイ・ドナヒュー、タブ・ハンターなどの有名な俳優を代表していました。両親は職業的には成功していましたが、結婚生活ではうまくいかず、私が1歳のときに離婚しました。父は5回結婚し、母は3回結婚しました。

ユダヤ人であることが私のアイデンティティを決めました。8日目にモヘル(割礼を行う人)が私を割礼したこと、成長する過程で定期的にシナゴグに通い、主要なユダヤ教の祝日に参加し、ヘブライ語の日中学校に通ったことなど、私はユダヤ人として育ちました。この初期のユダヤ教との触れ合いの中で、神が本当に存在するかどうかという疑問を抱くこともありましたが、強力なユダヤ文化がその疑問を覆い隠しました。私にとって、ユダヤ教は宗教的なものではなく、単に文化でした。

ユダヤ教の祝日を祝うことは、私たちの家族にとって不可欠でした。過越の祝典では、エジプト人がユダヤ人を根絶やしにしようとした試みや、神がモーセを遣わしてユダヤ人をエジプトから救った話を何度も何度も聞くために家庭に集まり

ました。毎年、新年のローシュ・ハシャナと贖罪の日のヨム・キプールの高祝祭日の礼拝のためにシナゴグに行きました。

ヨム・キプールになると、過去1年間の罪や間違いが全て償われることを思い出しました。過去の記録が帳消しになるのです。以前は、罪が本当にどれほど悪いものであるか疑問に思うことがありました。毎年簡単に消されるなら、罪はそれほどひどいものでしょうか。

ヨム・キプールにシナゴグで座って周りを見回していると、私たち全員が毎年罪を犯しているのは何か問題があるのではないかと思いました。過去1年間の罪がすべて思い出され、償われるために、きちんと自分は思い出しているかどうか、どのように確信することができるのでしょうか？

硬い木のベンチに一日中座っている間、私は心配しました。もし私の記憶の中で罪を白く塗りつぶして告白しなかったら、それでも赦されるのでしょうか？私は自分の罪を全て認めるために十分に誠実であるかどうかをどうやって知ることができるのでしょうか？私が罪を告白する際に十分に誠実であったかどうか、審判を受けないためには十分に正直であったかどうか、私は疑問に思いました。もし私が十分に誠実でなかった場合、どうなるのでしょうか？私は、いつもトラブルに巻

き込まれる反抗的な子供だったので、私は毎年ヨム・キプールに戻らなければならないことを知っていました。私にとって、ヨム・キプールの高祝祭日は、「トム・キャンターの罪の償いの日」の高祝祭日と言われても良かったのです。私の罪は非常に多かったため、ヨム・キプールの礼拝で罪を思い出すよう呼びかけられると、本当に何から始めればいいのかわかりませんでした。一つ一つの罪を思い出そうとしながら私は動揺しましたが、とにかくやってみました。

都市の陸軍士官学校

私が7歳のとき、私はウェストロサンゼルス市の都市の陸軍士官学校一に送られました。ユダヤ人の家族は子供たちを軍事学校に送りません。しかし、両親は他に選択肢がないと感じました。ビシッとした軍服を着ている私は、トラブルメーカーには見えませんでした。



変装したトラブルメーカー

軍事学校でのオリエンテーションの最初の日に、火災報知器に注意を引かれました。私はそれに絶対に触れてはいけないと言われました。反抗的な性格の私は、その挑戦に抵抗できませんでした。火災報知器を通るたびに、私の手が上がりました。それに触れることはとても気持ち良かったのです。ある日、私の触れた手が緩んでいたガラスを外してしまいました。ガラスが落ちて床に散乱するのを見て信じられませんでした。それから、学校中に鋭い警報が鳴り響きました。学校全体が閉鎖され、何百人もの生徒が避難しなければなりませんでした。級生たちは私が犯人だと言いつけました。私には隠れる場所がありませんでした。私の即時の罰は、銃を持ちながら腕を伸ばして立つことでした。それにより、8歳のときに名誉を傷つけられ、都市の陸軍士官学校から追放され、私の軍人としてのキャリアは終わりました。私に残された唯一の選択肢は、公立学校システムに登録されることでした。ウェストハリウッド文法学校とエマーソンジュニアハイスクールに通い、父が私を寄宿学校に送ることを決めたため、大学高校で1年間だけ過ごしました。

15歳になったとき、私は今まで味わったことのない安定した家庭生活を望んでいました。私は母の家と父の家に行き来していましたが、問題は、最近義母や義父とうまくやっていけなかった

ことです。実際には私が住む場所もうなく、居場所もなかったのです。私は迷子でした!

「スイスが彼を浄化するだろう」

ある日、私はサンタモニカのヒューズ食料品店に行き、レコードアルバムを選びました。私は15枚のアルバムを選んで、キャッシャーの隣の空の箱に投げ入れました。店を出て、その後再び店に戻り、キャッシャーに空の箱を持って行ってもいいかと尋ねました。アルバムが入った箱を持って行きました。私が「空の箱」を手に店の正面ドアを出ると、警察が待っていて、私に手錠をかけました。警察署では、窃盗の罪で逮捕されました。父親は警察署に到着したとき、怒りと恥ずかしさを感じていましたが、担当の警官に私の告発を取り下げ、私の前科を消してくれるように説得しました。その代わりに、私は心理的カウンセリングを受けることを約束しました。

その夜、父親は私の問題を調べるためにプロの専門家を呼びたいと思い、私をUCLAの著名な心理学教授である友人のオフィスに連れて行きました。友人の専門的な評価によれば、私は本当に良い子供だったそうです(もちろん彼は間違っていました)。彼は父親に、ロサンゼルス環境が私の良い性格を腐敗させたことが問題だと説明しました。

父親とその友人は、私をモントルー、スイスのジュネーブ湖にある雪の降り積もるアルプスの麓

に位置する、フランス語を話すモンテ・ローザ寄宿学校に送るべきだと決定しました。スイスが私を「浄化」するだろうと結論づけたのです。モラル的な汚染から私の魂を浄化するのは、清潔なスイスの環境であるはずでした(私は今回も彼らが間違っていることを知っていました。問題は常に私自身であったのです。結局、父は私を「マジク」と呼び、それは「破壊者」という意味でした)。

ある寒い夜、私はロサンゼルスからニューヨーク市のケネディ空港へ向かう夜行の便に乗りました。



1965年のロサンゼルス国際空港

そこから、大西洋を渡りヨーロッパに向けて出港する予定でした。これは私にとって新しい冒険に

なるでしょう。私は海外に行ったことはありませんでした。翌朝早く到着し、HMSクイーン・メリーに行き、トランクをポーターに預けました。トランクのほとんどのスペースには私の誇り高いモータウンのレコードアルバムが入っていました。船が発航するまで7時間があったので、私はビッグアップルに向かいました。両親から自由になれて嬉しかったです。私は時間通りに船に戻りました。私はクイーンメリー号に乗り込むために急な渡し板を歩いて上りました。船のデッキに足を踏み入れた瞬間に孤独を感じました。15歳で未知のものに立ち向かうこの新しい経験に、私は深い恐れと自分の居場所を見つけたいという切望感に圧倒されました。船がゆっくりと港から離れると、すべての乗客が船の後部に駆け寄り、白いハンカチで陸上の愛する人々に別れの挨拶を送りました。彼らも白いハンカチで挨拶を返しました。私には、クイーン・メリー号で私を送り出すために白いハンカチを持って栈橋にいる人が誰もいないと思いました。



ニューヨーク港の HMS クイーン メアリー

孤独感が増していきました。私はゆっくりと自分のキャビンに向かいました。キャビンにこもって一人ぼっちで航海全体を過ごすことはできないことを知っていましたから、私は外に出ました。同じ学校に通う他の4人の生徒と出会いました。みんな魅力的な女の子でした。事態が好転してきたようでした!

船はフランスのル・アーヴルに到着し、私たち学生全員がスイス行きの列車に乗りました。列車の中や新しい環境では、私の古い反抗的な性格が再び現れました。私は騒がしく周りの乗客に迷惑をかけたため、スイスの警察が来て私を落ち着かせる必要がありました。そのうちの一人が私の耳をつかんで、私は彼らの国のゲストであり、

彼らはいつでも私を国から追い出すことができると告げました。その言葉を聞いて、私は列車の残りの旅行を我慢して過ごしました。

最終的に、列車はモントルーの駅に到着しました。私はモンテ・ローザ寄宿学校にチェックインし、落ち着きを取り戻し始めました。



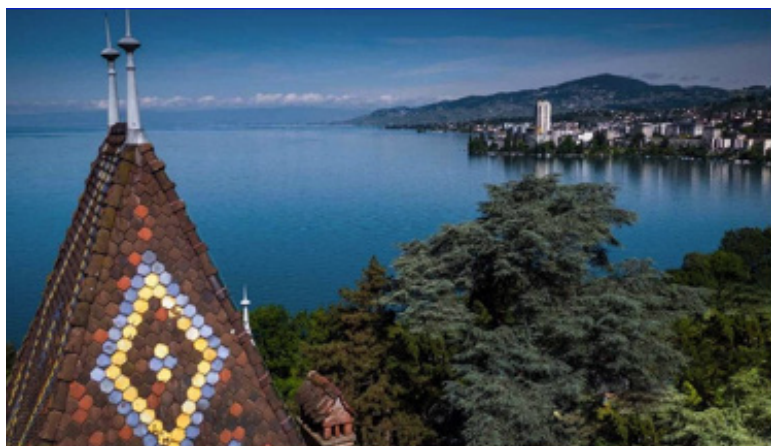
モンテ・ローザ学校の正面



モンテローザスクールのファサード
(ドアの内側と左側には石の階段がありました)



モンテ・ローザ学校の裏側



スイス、モントルー



ジュネーブ湖にあるモンテ・ローザ学校

列車での出来事とその後起こった出来事から、明らかに「腐敗した」ロサンゼルス環境私の問題ではなかったことがわかりました。それは私の問題でした。モントルーに到着してから7週間後、地元の警察が酔って街でけんかをしていた私を逮捕しました。私は恥ずかしながら、学校に引きず

り戻されました。ここでも、軍の学校から退学させられてから7年後、スイスの寄宿学校から退学させられました。学校の校長は、翌朝私をジュネーブまで車で連れて行き、ロサンゼルスへのフライトに乗せて、父親がロサンゼルスで私を迎えに来ると言いました。私の頭にあったことは、翌日のロサンゼルスへのフライトに乗りたくないということでした。何か行動を起こして、その飛行機に乗せられないようにする必要がありますがありました。

帰国の前の夜、私は計画を立てました。部屋に戻り、私の持ち物をひっくり返して、カミソリの刃のパックを見つけました。それらをポケットの奥に詰め込みました。それから、皆が夕食に着席しているのを待ち、廊下に誰もいなくなるところを待ちました(軍の学校で火災警報が鳴ったとき、私を非難する証人がいました。今回は誰にも見られていないことを確認しました)。階段の頂上に立ち、本を階段に投げ下ろし、それから自分自身を投げて、長い石の階段を転がり落ちました。各石の段に当たるたびに叫びました。私は階段の下で、ひとかたまりの紙のようになって、背中を抱えながら叫び声を上げました。

救急車が呼ばれました。私はストレッチャーに乗せられ、そのストレッチャーからモンテ・ローザ寄宿学校の内部を見た最後の瞬間でした。モントルー病院では、私は腎臓の痛みを訴えました。

看護師は尿の容器を渡し、私を一人にしました。それが私が待っていた絶好のチャンスでした。私は容器に尿を排泄し、その後ポケットの奥からカミソリの刃を取り出しました。1本の刃を取り出し、尿サンプルの上に人差し指を置きました。私は息を止め、指の先を切り、赤い血が黄色い尿に滴り落ちるのを見ました。そしてその混合物をかき混ぜました。看護師はドアをノックし、私は彼女に赤い尿のサンプルを手渡しました。

私には腎臓の疾患があると言われ、入院する必要がありました。指を切る計画がうまくいきました。翌日、私は時計を見ながら、ジュネーブ行きのロサンゼルス行きの飛行機が私を乗せずに離陸したのを見ました。問題は、飛行機が私を乗せずに去った後、病院で何をすべきか考えていなかったことでした。なので、新しい尿サンプルを求められるたびに、別の指を切り続けました。そして次の課題がやってきました。新鮮な指の先を切るのが難しくなってきたとき、医師が私の部屋にやってきて、傷ついた腎臓を修復する手術が予定されているといいました。外科医がメスを使って私を切り開くことを考えたとき、私はパニックに陥りました。私は突然、奇跡的に回復しました。次の尿サンプルを看護師に渡したとき、完全にきれいでした。彼らは戻ってきて、手術は必要ないと言いました。このようにもう一つの危機を回避しました。

今、病院は私の退院の準備をしていましたが、私は退学してモンテ・ローザ寄宿学校に戻ることができませんでした。新しい寄宿学校に受け入れてもらえるほどの魅力的な記録は私にはありませんでした。ロサンゼルスから、父親は私を受け入れてくれる新しい寄宿学校を見つけることができました。フランス語を話す男子校であるリセ・ジャカールは、レマン湖沿いのローザンヌ、スイスに位置していました。私は新しいスタートを切るためにその学校に入学しました。今度は再び退学させられないようにしようと決意しました。



青い屋根のボートハウスがあるリセ・ジャカール



リセ・ジャカールの正面ドア



レマン湖に面したリセ・ジャカールの裏側



リセ・ジャカールの教室棟

リセ・ジャカールでの次の2年間、夏に帰国したかったのですが、両親は私をヨーロッパに置いていきました。彼らは自分たちの生活が忙しかったから、ヨーロッパへ自分の息子に会いに行くことすらしませんでした。そのため、他の生徒が夏に帰国する間、私は見捨てられたように感じました。それがスイスを私にとってますます冷たく感じさせました。私は浮いた存在でした。自分が望まれていると感じたかったし、寄宿学校ではない場所で居場所がほしかったのです。

「私は汚れている」

学校の夏休み中、私はリセ・ジャカル寄宿学校の冷たい環境を離れ、列車、船、ヒッチハイクでヨーロッパ中を旅しました。私は自分を受け入れてくれる人を探していました。その旅行中、性的な欲望が目覚めました。性的な親密さが私の空虚感を埋め、平和と幸福をもたらすと期待しました。私は慰めと愛を求めて女性に頼りました。しかし、私が頼った女性たちは愛を求めているのではなく、単なる新しい興奮を求めています。これらの性的な出会いは私をますます空っぽにさせるだけでなく、悪化させ、内部で不潔な気持ちにさせました。私は内側が汚れてしまった気持ちになったのです！私はすべての間違った女性と愛を求めています。これらの関係によって愛が得られることはなく、私は性的に汚れたものだという意識だけがはっきりと残りました。そうして恥ずかしさ、罪悪感、不潔な感覚に苦しむことになりました。

さて、私の問題はどのようにして道徳的に清められるかでした。道徳的に汚れていると感じる感覚は非常に強力で、ある夜、白い石鹸の棒を持って寄宿生のシャワールームに入り、2時間かけて自分を洗い、洗い、洗いつくしました。自分をきれいにしようと思いました。その長いシャワーを終えると、中に入る前と同じように内部が汚れているように感じました。私は性的な経験の記憶を洗い流すこと

ができず、罪悪感と恥ずかしい思いがありました。私はリセ・ジャカルを卒業する際に手にしていたのは、高校卒業証書だけでなく、不潔な心でした。私は性的な汚れから浄化される方法を見つける必要がありました。

「シェリルが私を浄化してくれるだろう」

17歳でリセ・ジャカールを卒業し、大学に進学する決断を迫られました。それは1968年、LSDによる性的革命の真っ只中でした。ロサンゼルスは怖いと思いました。罪悪感と恥ずかしさから逃れられる場所が欲しかったのです。親戚がわずか35マイル先のシンシナティに住んでいたのも、オハイオ州オックスフォードのマイアミ大学がぴったりだと思えました。ヨーロッパから離れてオハイオにいる間も、不快な性的な記憶は私を苦しめ続けました。さらに苦しみを悪化させたのは、孤立して自分の居場所がないと感じていたことでした!学校ではルームメイトのいない寮の部屋に住んでいました。ある夜、薄暗い部屋にいたとき、私はどん底に落ちました。自殺以外の出口はないと思うほど、とても落ち込みました。それで怖くなりました。私は自分を汚れていると感じさせる思い出から、逃げられる別の方法があるはずだと思いました。道徳的の汚れと居場所がないことが私の問題であるなら、ヨーロッパで出会った女性たちとは違う女性を見つける必要があると結論しました。純粹で清らかで、自分の居場所になってくれる、私を「清潔」だと感じさせてくれる女性を見つける必要があると決めました。私の目標は、私を大事にしてくれる、純粹な愛情と優しさを教えてくれる清らかな女性を見つけることでした。

その夜、私は寮の部屋を出て大学図書館の地下に行きました。私は会話を楽しんで親密な関係を築くことができる真面目な学生を探していました。私は一列に並んだ個別の学生用スタディールームに向かいました。各部屋のドアには四角い窓があり、私はそこから中をのぞくことができました。各学生が勉強中に聴きたい音楽が、各部屋に送り込まれていました。私は部屋の列の先頭に立ち、その窓を見つめて「ぴったり!ウィンドウショッピングだ!」と言いました。私は次から次へと窓をのぞきながらゆっくりと進みました。最終的に、彼女を見つけました。彼女はそこに座っていました。彼女は金髪で青い目をしていました。控えめな服装でした。私にとって彼女は純粋で清らかに見えました。その後わずか16ヶ月で、その女性が私の妻になることを知る由もありませんでした。行動を起こしました。私はふてくされた顔をして、そっとドアを叩き、自信を持ってゆっくりと開けました。彼女は興味津々に私を見上げました。私は言いました、「すみません、私もあなたが聞いている音楽を聞きたいのですが、どの部屋も空いていません。この部屋をいっしょに使ってもいいですか?」(もちろん嘘です。空いている部屋はありました。)空いている部屋がないことを残念がるような様子で、彼女は承諾しました。私は彼女の前に座りました。音楽は非常に奇妙でした。モータウンの音楽ではありませんでした。微笑んで少し満足げに、彼女はすぐに尋ねま

た、「その、どうしてアフリカの部族音楽に興味があるんですか?」私はアフリカの部族音楽について何も知りませんでした。私は彼女の質問をかわし、彼女の名前と出身地を尋ねました。

彼女の名前はシェリルで、オハイオ州のアクロン出身でした。私は彼女がフランス語を勉強していることがわかりました。私はスイスのフランス語を話す高校を卒業したところだと彼女に伝えました。彼女に少しフランス語を話してもらえるか尋ねました。それで私は彼女のフランス語のアクセントを評価することができました。彼女はフランス語で会話しようとしていました。彼女と時間を過ごすチャンスを見つけたので、彼女の発音がひどいと言いました。自分の発音もひどいことを知っていたにも関わらず、彼女の発音を良くするのを手伝うと提案しました。彼女は私の提案を受け入れました。私は必要な「友達」を見つけたのです。

私は家族について話し始め、祖父が正教のラビだったことを伝えました。彼女は驚きました。私をよく見つめ、彼女は「あなたはユダヤ人ですか?」と私に聞きました。彼女に私がユダヤ人であることを伝えました。彼女はユダヤ人ではないが、ユダヤ人のコミュニティで育ち、多くのユダヤ人の友達がいると言いました。彼女はユダヤ人が大好きだと言いました。私にとって、ユダ

ヤ人でない人がユダヤ人を愛するなんて馬鹿げて聞こえました。だから、私は彼女になぜそう思うのか尋ねました。彼女のお気に入りの本がユダヤ人によって書かれ、お気に入りの人物もユダヤ人だと言いました。私はどの本か、そして彼女が話しているユダヤ人の人物が誰か尋ねました。彼女は大きな古びた革製の本を持ち上げました。それは聖書でした。彼女はさらに、お気に入りの人物がユダヤ人であるイエス・キリストだと説明しました。私の頭にあったことは、「私が彼女のお気に入りの人物になりますように」ということでした。

彼女が話すほど、私は彼女を外面だけでなく内面も美しいと尊敬しました。明らかに、シェリルは私の反対でした。彼女は私よりも優れており、純粋で健全でした。彼女こそが私が探していた人でした。

「恋に落ちて」

シェリルを知るほど、私は彼女のすべてが大好きになりました。彼女の見た目、考え方、表現の仕方、すべてが大好きでした。私たちは互いに時間を過ごしたいと思っていました。私たちは何時間も電話で話しました。シェリルは、私との長時間の通話を楽しむために、ベッドを部屋の隅の壁掛け電話のそばに押しやったと教えてくれました。彼女ともっと時間を過ごすために、彼女の日々のスケジュールが整理されていないと説得しました。策略を巡らせ、私たちのクラススケジュールを組み合わせて、2人とも自由な時間をすべて一緒に過ごす提案をしました。要するに、私が彼女のスケジュールを仕切ることになりましたが、彼女は一度も反対しませんでした。

私はシェリルのことで頭がいっぱいになって、また彼女も同じでした。シェリルは、家に電話をかけて母親と話するとき、私のことばかり話すと教えてくれました。彼女の母親は心配して警告しました。

「シェリル、この少年に夢中にならないで。」しかし、その警告を聞きませんでした。私たちの愛は日に日に強まっていました。人生を一緒に過ごしたいと願い、私たちは結婚について話し始めました。

実際、私たちはとても対照的でした。私は不安定で自分に自信が持てない、世界を旅してきた人間でした。彼女は安定しており、保護された中西部の健全で純粋な少女でした。シェリルとの関係がますます花開くにつれて、シェリルが私の浄化への道だという新しい希望も芽生えました。彼女は私がうらやむ魂の平和を持っていました。

私は望んでいた内面の明るさを持っていました。シェリルは私に必要なすべてでした。私はシェリルから生命の浄化の蜜をもらいたいと願っていました。私は彼女を私の「解放者」と見ていました。熱烈な愛の中で、私たちの絆は壊れることのないものでした。

「彼女はユダヤ人ではない!」(私の父)

今度は私の父親にこの新しい恋について伝える番でした。マイアミ大学から帰宅したその夏、私は父親に女の子に出会ったことを伝えました。父親はすぐに一つの質問で私に向き直りました。「彼女はユダヤ人か?」彼女がユダヤ人でない限り、彼女について他の何も知りたくありませんでした。私が彼女はユダヤ人ではないと言ったとき、父親は怒りました。彼はなぜ私が自分の指示に従わなかったのか尋ねました。ヒレルキャンパスの組織に参加してユダヤ人の女の子を見つめるようにと。私はもうすでに遅すぎるとは言いませんでした。すでに私の人生の愛であるユダヤ人でない少女、シェリルを見つけてしまっていました。

今、父はこのユダヤ人でない少女を私の心から追い出そうと決心しました。シェリルと私の間に楔を打ち込むために、彼は友人のハーブ・ニューマン博士を連れて、ラスベガスへの5時間のドライブに行くように命じました。私には選択肢はなく、そのドライブへ行くしかありませんでした。父親とニューマン博士は前席に座り、私は後ろに一人座って、非常に集中的な洗脳を受けることになりました。道路上にいて車内に閉じ込められた状況で、私はユダヤ人の歴史は異教徒がユダヤ人を殺す歴史であると強く説かれまし

た。彼らは私に対して、異教徒は信用できないと言いました。彼らは何度もナチスがユダヤ人を殺し、すべてのナチスはキリスト教徒であると繰り返し語りました。(心の中で、「シェリルは私にはナチスのようには見えないな」と思いました。)ラスベガスに到着したとき、彼らは実際に私に対して正反対のことを達成することになりました。

私はシェリルを選びました。彼らは私にシェリルとの関係を絶つようと命じました。その絶対的な命令を聞いて、私は8歳のときに軍学校に通っていたことを思い出しました。消火器のアラームを触れないようにするという絶対的な命令を与えられ、それを全く逆のことをするチャレンジと受け止めましたことを思い出しました。今、この新しい命令、シェリルと別れる命令を逆にするチャレンジと受け止めました。父親は、関係を切れという命令に従うように、私を説得することに成功したと確信していました。そして、彼の別れ際の言葉は「シェリルはユダヤ人ではない!」でした(父親は知りませんでした、私のシェリルへの献身的な愛情は強く、止めることのできないものでした。私の心は私に、父親の命令に従ってシェリルと別れるように指示しました。私はできませんでしたし、しませんでした!)

「私たちはユダヤ人ではない!」 (シェリルの母)

マイアミ大学に戻り、アクロンにあるシェリルの両親の家で休暇を過ごしました。シェリルの両親は、私たちがお互いに真剣だと分かったと、私に対する態度が悪く変わりました。シェリルによれば、母親は彼女を引き寄せ、彼女たちの家族がユダヤ人ではなく、シェリルもユダヤ人ではないと告げました。母親は、異なる宗教の結婚は問題を引き起こす運命にあると警告しました。子供たちがどの宗教で育てられるかが大きな問題になるだろうと言いました。私は子供たちをキリスト教ではなく、ユダヤ教で育てるよう主張するだろうと彼女は言ったのです。彼女の両親も私の父と同様に、シェリルと私が合わないに反対しました。彼女の母親の言葉は「私たちはユダヤ人ではありません!」でした(彼女の母親は知りませんでした)。シェリルの私に対する献身的な愛情は止めることのできないものでした。シェリルの心は親の命令に逆らいました。彼女は私と別れることはできなかったし、そうするつもりもありませんでした!)

「結婚してくれますか?」

私が19歳で、シェリルが22歳だったとき、私の人生で2番目に重要な決断をしました。彼女はすでに1969年12月に卒業し、私とは異なり、マイアミ大学に戻ることはありませんでした。彼女は故郷のアクロンに戻り、オハイオ州のオックスフォードから250マイル離れた場所に住んでいました。私たちの間にその距離があることを考えることができませんでした。時間が切れつつあるように感じ、今がチャンスかもしれないと思いました。だから、朝の2時に彼女の実家で尋ねました。「結婚してくれますか?」シェリルは「はい」と言いました。

「失望」

「はい」とシェリルが結婚を受け入れた瞬間、それは私の人生で最も幸せな瞬間でした。未来に対する喜びと希望でいっぱいでした。ついに彼女との結びつきが、私自身の罪悪感、恥ずかしさ、絶望から解放してくれると思ったのです。ついにきれいになれるはずだったのです!しかし、その次に何が起こるかを想像することはできませんでした。大いなる期待の頂点から、深い絶望の底に堕ちました。彼女が「はい」と言った瞬間、私のプロポーズを受け入れた同じ瞬間、彼女は私に衝撃的なニュースを伝えました。頭を下げ、涙が顔を伝って、彼女は自分が強姦され、今妊娠していることを告げました。その夏、私がカリフォルニアにいたとき、国際関係学専攻のシェリルは、親友のリンダ・アイダラともう1人の友達と共にヨーロッパを旅行することを決めました。シェリルは決して一人で旅行し、無防備には行くつもりはありませんでした。しかし、ヨーロッパに到着してすぐ、リンダともう1人の友達は計画を変更し、リンダが交換留学生だったスペインに行くことに決めました。他に選択肢がなかったため、シェリルは不本意ながら、残りの旅行を一人で終えることになりました。フランスの宿泊先で一人になっていたとき、シェリルは強姦されました。その知らせは私の世界を打ち砕きました。何を言ったら良いのか分かりませんでした。私は戸惑い、混乱し

ていました。まるで目の前で爆弾が爆発し、私はショックで殻に閉じこもってしまったようでした。しかし逃げる代わりに、逆のことが起こりました。自分の考えと感情を整理して、私はその場でシェリルと一緒にいる決意をしました。私たちは既に、立ちはだかるさまざまな困難な状況を乗り越えて、お互いを見捨てないことを決めていたのです。今もそしてこれからも。

「シェリルのそばに立つ」

シェリルのそばにいることを決意し、学校を中退することにしました。この問題が、皮肉にも、以前よりもシェリルに近づけたと感じさせました。言い換えれば、この危機は私たちの絆をより強固にし、もはや壊れることのないものにしました。シェリルの状態を考えると、彼女の両親が状況を知ったら、干渉してきて彼女を私から引き離すのではないかと心配しました。朝の2時に誰もが眠っている中、私は彼女に、すぐに逃げなければならないと伝えました。静かに持ち物をまとめ、車に向かう途中、シェリルの兄が目覚めました。彼は「どこに行くのか」と尋ねました。私たちは逃げて結婚しに行くことに彼に伝えました。彼は「素晴らしい!」と言いました。秘密にしたいと思い、シェリルが妊娠していることやそれがどのように起こったかは言いませんでした。シンシナティへ向かう車の中で、突然、赤ちゃんが生まれることになり、私たちは子育ての責任がかかることを知りました。私は19歳で、シェリルは22歳でした。仕事も住む場所もなく、支えてくれる家族や友人もおらず、人生の方向も見失っていました。私は恐れていました!私はシェリルに、赤ちゃんを良い家庭に置くために養子縁組をするのが最善だろうと伝えました。私たちは中絶は考えられないことであり、養子縁組が私たちの唯一の道だと同意しました。

「彼女を捨てろ!」(ルーチェ先生)

シンシナティに向かう途中、私たちは私の持ち物を取りにマイアミ大学に立ち寄りました。朝6時30分に到着したとき、地面には軽い雪が積もっていました。夜明け前、キャンパスの街灯がまだ点いている中、私はフランス語の教授であるルーチェ先生が自分のオフィスに向かって歩いているのを見ました。私もシェリルも彼の生徒だったため、ルーチェ先生を信頼していました。私はシェリルに車で待っていてもらいルーチェ先生に別れの挨拶をし、彼のコースは修了しないことを伝えるつもりで、彼に追いつくつもりでした。私一人で彼とオフィスに歩いて行きました。そこでシェリルが強姦され、今では妊娠しており、私たちは結婚するためにシンシナティに向かっていることを伝えました。ルーチェ先生は私に向かって眉をひそめながら、「彼女と別れろ。彼女はただの厄介者だ!」と言いました(私は彼が間違っていることを知っていました)。今、さらなる困難に直面することになり、私はオフィスを出て、シェリルを決して見捨てないという強い決意を持って立ち去りました。過去に何があったか、将来どのような問題に直面しようとも、私はシェリルのそばに立ち続けると決意しました。

「結婚」

オハイオ州オックスフォードを出発し、シンシナティに向かいました。8時30分頃、裁判所に到着しました。裁判所が開くのを車の中で待っていると、寒くてたまらなかったです。ようやくドアが開き、私たちは一番乗りで入場しました。書記官に結婚したいことを伝えると、書記官はシェリルに「お嬢さん、あなたは何歳ですか?」と尋ねました。シェリルは「22歳です」と答えました。書記官は「了解です」と言いました。

次に、書記官は私に振り向いて「あなたは何歳ですか?」と尋ねました。私は「19歳です」と答えました。すると書記官は「ああ、あなたは19歳ですね。では、ここに書類があります。この欄にあなたの父親と母親の署名が必要です」と言いました。私は「でも、彼らは絶対に署名してくれません。私はユダヤ人ですが、彼女は違います。どうすればいいですか?」と聞きました。

その時、書記官は私たちにオハイオ川橋を渡ってケンタッキー州に行くように言いました。そして、「ケンタッキー州では、相手が8歳であってもいとも同士であっても、結婚させてくれるんです」と教えてくれました。シンシナティからケンタッキー州に出る前に、小さなスタジオを借りることができました。家具は引き出し式のソファだけでした。私はマイアミ大学の親友であるジョン・"ラン

ディ"・ロバーツを、シェリルは親友であるリンダ・アイダラを添人として呼びました。忠実な友人である彼らは、ケンタッキー州コビントンで私たちと会う約束をしました。

オハイオ川を渡ってコビントンに到着すると、太陽の光が川の滑らかな水面に輝いていました。私たちは早速、結婚指輪を買いに出かけました。宝石店のショーウィンドウには、100ドルで買える2つの金製の結婚指輪が並んでいました。しかし、私の手元には100ドルしかなく、指輪を買ったら一文無しになってしまいます。そこで、シェリルに35ドルを渡し、自分のポケットに65ドルを入れて店内に入りました。店員に結婚指輪が欲しいですが、65ドルしか持っていないと言って、65ドルをカウンターに置いてポケットを裏返して見せたところ、65ドルで指輪を買うことができました。今でもその指輪を身に着けています。

その後、ランディとリンダと合流しました。裁判所の事務官のジャック・"ダッキー"・メイダーの居場所を尋ねると、彼は事務所の近くのバーにしていると聞きました。車の中でみんなを待たせて、バーに入ってメイダーを見つけました。シェリルと今すぐ結婚したいと言ったら、彼は事務所に向かい始めました。私はみんなに合図して事務所へ向かいました。メイダーは事務所のドアを開けて、聖書と結婚の誓いの言葉を取り出しました。私た

ちは彼の前に立ち、彼は聖書を開いて誓いの言葉を読み上げ、私たちの返事を待ちました。私は結婚したい気持ちが強すぎて、慌てて「はい、はい、はい」と返事をしてしまいました。シェリルは私が誓いの言葉を軽く受け止めているのではないかと心配して、私を止め、「その誓いの言葉をよく聞いて」と言いました。最後に、メイダーは私たちを夫婦と宣言しました。そして、指輪を渡し、私たちはお互いに指輪をはめました。あとは、メイダーが結婚許可証に記入して署名するだけでした。今、私はシェリルと夫婦であることを証明する貴重な書類を手に入れました。ついに、私たちは結婚しました。

Certificate of Person Performing Marriage Ceremony
TO BE DELIVERED TO PARTIES MARRIED 26-267

I, Jessie M. Mader a Justice
of the Peace Church, or religious order of that name,
do certify that on the 17th day of January, 1920
at Paducah, Kentucky,
license issued by A. H. Humes, Mayor of County Court of Fulton
County 1, State of Kentucky, dated the 17th day of January, 1920, I united
James M. Mader and Elizabeth A. Munroe
Husband and his Wife, in the presence of the following witnesses:
John P. Roberts and Sandra M. Adela
Given under my hand, this 17th day of January, 1920.
Jessie M. Mader Person Performing Ceremony, Sign Here
Justice of the Peace
Campbell County, Kentucky Title of Office

結婚証明書

何もない部屋で、私たちは床に毛布を敷いて座り、ケンタッキーフライドチキンとボブズビッグ

ボーイのストロベリーパイを食べて祝いました。それ以来、鶏肉とイチゴのパイがこんなに美味しかったことはなかったです。

その結婚初夜は、ランディが引き出し式ソファの私の側の下で冷たい床で寝て、リンダがシェリルの側の下で冷たい床で寝ていました。結婚生活が始まりました。それは素晴らしかったです。私はとても充実していて、希望に満ちていました。これまで直面してきたすべての問題にもかかわらず、これからはすべてうまくいくと楽観的でした。私はシェリルといました。そして、シェリルと一緒にいれば、人生に必要なものはすべて揃っていると私は知っていました。

「両親に結婚の発表」

シェリルの両親に結婚したことを伝えると、その日のうちにアクロンから車でやって来ました。到着するとすぐに、シェリルが妊娠していて、赤ちゃんは養子縁組に出すつもりであることを伝えました。また、赤ちゃんは私が父親ではなく、ヨーロッパにいたときに妊娠したことも伝えました。

彼らは、私が許可なく(そして彼らは許可しなかっただろうが)娘を連れて結婚したため、とても怒っていました。彼女の父親は、私たちのアパートに到着したときに50ポンドのジャガイモの袋を持っていて、出ていくときに私に手渡して、「これが必要になるだろう」と言いました。彼らはドアを開けて寒い冬の外に出ると、車に乗り込んで走り去りました。赤ちゃんが生まれるまで、私たちは彼らに会ったり話したりすることはありませんでした。私たちの知る限り、彼らはシェリルの妊娠を秘密にしていました。

私の母に結婚したことを電話で伝えると、彼女は「ああ、トミー、それはすばらしいわ。結婚生活はどう?」と答えました。私は「最高だよ、ママ。もっと早く結婚すればよかった」と答えました。彼女は「トミー、あなたはまだ19歳よ!」と言いました。シェリルが妊娠していることは伝えませんでした。

父にもシェリルが今は私の妻であることを電話で伝えました。すると、彼は激怒し、電話を切りました。次に、フロリダ州マイアミで外科医をしている叔父のジャックから電話がありました。彼は家族を代表して電話をしていると言っていました。彼は私に冷静に話しかけ、ある提案をしました。家族全員に囲まれたテーブルのある場所へ来いと言われました。テーブルの上には多額のお金があるから、誰も一言も発しないから、私はお金を受け取り、すぐに離婚し、二度と非ユダヤ人と結婚することを忘れ、誰も二度とこのことについて話さないことにするという提案でした。

私は「ジャック叔父さん、それはかなり厳しいですね。プランBはありますか?」と答えました。彼は「はい、あります。良い人生を送ってください」と答えました。これは家族が私に永遠に別れを告げているという意味でした。私はプランBを選びました。私はシェリルを選びました。

シェリルにその会話について話すと、シェリルは「それはあんまりだわ!私はユダヤ人家族と結婚したし、ユダヤ人家族になるつもりよ!」と言いました。結婚して最初の1年間、シェリルは私のユダヤ人家族との関係を修復するために努力しました。後になって、私の父は私たちと一緒に夕食のテーブルに座って、私たちが和解したと言ったが、私を見ながら「お前のおかげじゃない」と説

明した。そしてシェリルを指して、「でも、彼女のおかげだ」と言いました。

シェリルのおかげで、私たちは最終的に私のユダヤ人家族に受け入れられました。

「関係の幻滅」

私はすぐに、スイッチマンになるための訓練を受けながら、1ドルの時給で鉄道での仕事を見つけました。お金を節約するために、私たちは10セントで売られていた1ポンドの七面鳥の尾を食べました。今でも私は七面鳥の尾が好きです。

結婚してうれしかったです。しかし、強姦が私たちの生活にこんなにも恐怖をもたらすとは思いませんでした。強姦の影響は想像を絶するものでした。明らかに、シェリルは心的外傷後ストレス障害を患っていました。彼女は夜になると明かりをつけたまま寝るように言い張り、暗闇で怖がっていました。まだ襲撃を恐れている彼女は、夜中に叫び声を上げ、冷や汗をかき、震えることがありました。それは私たち両方にとってひどい時期でした。シェリルが耐えたこれらの恐ろしい症状を見て、私がシェリルを通じて清められる希望がないことがわかりました。私はシェリルに強姦カウンセリングを受けるように説得しようとしました。しかし、彼女はそれを全く受け入れませんでした。彼女は、自分を恐れさせた恐ろしい時期をカウンセリングセッションを通じて再体験することが耐えられなかったのです。

それからの人生、彼女はその痛ましい真実を隠

す道を選び、決して起こらなかったかのように否定しました。加害者への最終的な報復は、加害者の存在自体を否定することでした。醜い現実に向き合わないことで、彼女は非常に苦しんでいました。(しかし私には理解できないことがありました。それは彼女が最も暗い瞬間に絶望に飲み込まれない強さでした。)今、私には明らかでした。シェリルのせいではないが、彼女はもはや純潔ではありませんでした。彼女は汚されてしまったのです。彼女は「傷ついた品物」になりました。彼女が暴行を受け、無垢を失ったとき、私が彼女から回復し治癒するための希望がすべて打ち砕かれました。彼女との関係から得ることを望んでいたすべての助けは、今や死んでしまいました。

それでは、私はどうすればよいのでしょうか?私はまだ清めが必要でした。希望が必要でした。過去の重荷から解放される必要がありました。今度はどこに向かえばいいのでしょうか?誰に相談すればいいのでしょうか?シェリルは今、壊れた美しい花瓶のようでした。私は床にひざまずき、その美しい花瓶、壊れた純粋さの象徴をまた組み立てようとしている自分を見ました。しかし、その仕事は不可能で、手遅れでした。時計を戻すことはできませんでした。

「ユダヤ教家族サービス」

私にはシンシナティに家族がいましたが、過去を隠し、大きな秘密にするために彼らに連絡しませんでした。赤ちゃんをユダヤの家庭で育てるため、私はすぐにユダヤ家族サービスという団体に連絡しました。彼らはスタッフの一人をアパートメントに派遣しました。彼女の名前はドッティでした。彼女は良いユダヤ家族を見つける責任を個人的に負うことを私たちに伝えました。

シェリルの妊娠についてユダヤ家族サービスに伝えるべきことは、私たちが行わなければならなかった最も重要な決定の1つでした。私たちは、シェリルが強姦されたことが知られたら、赤ちゃんが養子になる可能性が減少することを心配していました。そのため、受胎に関する詳細を提供せずに、赤ちゃんは別の男性の子供であるとユダヤ家族サービスに単純に伝えました。私たちの目標は、赤ちゃんが養子になることでした。特に、強姦の痛ましい事実を大きな秘密に保ち、後で暴露されかねない強姦の記録がユダヤ家族サービスに残らないようにしたかったのです。

赤ちゃんが生まれる前に、ユダヤ家族サービスから、良いユダヤ家族を見つけたとの通知が届きました。これにより、赤ちゃんがきちんと世話を受けられることが保証されました。また、ユダヤ家

族サービスは私たちの身元が決して明らかにされないという約束し、彼らのデータファイルが常に封印されると約束してくれました。したがって、子供は私たちを探すことができないでしょう。この保証は、私たちにとって絶対的な秘密が必要だったものを確保しました。この保証により、過去はついに私たちの後ろに置かれ、前に進むことができると思いました。しかし、私たちは間違っていました。将来の数年間、強姦と妊娠が暴露されることを恐れながら常に生活しました。

「アルバーツ先生とユダヤ病院」

養子縁組の計画が整い、出産が近づくにつれ、私たちはシェリルのために医療ケアを受けることに集中しました。私はシェリルに産婦人科医を見つける必要がありました。母が父と別居したとき、彼女はロサンゼルスを離れてシンシナティの実家に行きました。そのとき、彼女は私を妊娠していました。彼女の産婦人科医は、シンシナティのユダヤ人病院で私の出生に立ち会ったエドワード・アルバーツ医師でした。この私とのつながりから、私はアルバーツ先生に連絡しました。アルバーツ先生は父を知らなかったため、シェリルと私はアルバーツ先生が父に妊娠について連絡することはあり得ないと確信がありました。また、母は私の誕生直後にロサンゼルスに戻ったため、先生が彼女にも秘密を明かさないことにも確信がありました。確かに、私のユダヤ人の両親は赤ちゃんについて決して知ることはないでしょう。私たちの秘密は守られ、彼らは決して見つけませんでした。医療ケアと養子縁組が整ったので、残されたのは赤ちゃんが生まれるだけでした。私たちは妊娠の長い冬の月が過ぎるのを待ちました。その冬は私たち二人にとって非常に寒かったです。

「生活の探求」

シェリルと一緒にだったにもかかわらず、私は凍てつくシンシナティの冬の中でとても孤独を感じました。友達も家族も、誰にも心を打ち明けられませんでした。その寒さは、私の魂に突き刺すような寂寥感を感じました。さらに、私を悩ませ続ける自分の性的虐待の不穏な記憶と罪悪感に苦しめられました。傷、非難、奪われた、侵害された、怒り、罪悪感、憎しみ、後悔、悲しみという強い揺れ動く感情に、私は無力に流されてしまいました。頭から離れない質問がありました。犯人はなぜ？彼女の二人の友人はどうして？神はどうしてこんなことを許した？どこにも救いを見つけることはできませんでした。慰めてくれるカウンセラーも、気を紛らわせる考えも、気をそらすことに没頭することも、助けてくれる人も誰もいなかったのです。

シェリルに起こったことは、私の人生の最後の希望を打ち砕きました。彼女と一緒に人生に希望と充実感を見つけないと切望していましたが、空振りに終わりました。まるで風をつかもうとして手を開いても何も見つからなかったような気がしました。

私は必死に助けを求めています。しかし、私の唯一の友人であるシェリル自身も深く傷つけら

れ、恐怖を感じていたので、私に何の救いも与えることができませんでした。彼女は、たとえ望んでいたとしても、私を穴から引き上げることはできませんでした。私はどうすればいいのか?しかし、シェリルがどれだけ傷ついていようとも、私は説明できない何かを見ました。彼女は自分の内なる痛みと完全に孤独に苦しみながらも、私が陥っていた恐怖と悲しみの渦に吸い込まれてはいませんでした。彼女は引き上げられて、絶望の闇の深みに落ちないように守られているのを見たのです。

明らかに、強姦はシェリルの魂に深刻な傷を残しました。彼女は悪夢、冷や汗、理不尽な偏執症状を経験しました。それでも、恐怖の攻撃ごとに、シェリルは私が経験しない平穏を感じていました。彼女は何度も倒れ、何度も立ち上がっていました。それに対照的に、私はますます深い深みに落ち込み、悲しみと苦しみの穴に沈んでいきました。私には救済の見込みがないと感じました。シェリルが持っていたものを私は持っていませんでした。私は彼女が持っているものを知りたかったのです。

今、恥ずかしながら、シェリルが神の存在を口にしたときに彼女が正しかったかもしれない現実と直面しなければなりません。私はシェリルに、私たちの家は「神も聖書も教会もない!

」と宣言したときの軽率な態度を苦痛の中で思い出しました。私は今、その言葉を噛み締めるように悶々と、這いつくばっている自分に気づきました。この最も低い場所から、唯一の手段は上を見上げることでした。謙虚に私は今、質問をしていました。「神よ、あなたはそこにいますか?神よ、私のためにそこにいますか?神よ、私にシェリルの持っているものを与えてくれますか?」

「未知への叫び」

私の神への探求は、あたかも暗闇の中に手をぐんと伸ばし、さらに伸ばして、応答してくれる神の手を感じることを望んでいるかのようなだった。私は神の代わりの宗教を探していたわけではありませんでした。ユダヤ教で宗教は十分でした。私はどんな形の制度的な神にも興味を持っていませんでした。共通の信念を持つ人々の共同体が、神の代わりになることはあり得ないと思っていました。私はシェリルでさえ神の代わりにはたくありませんでした（それはすでにうまくいきませんでした）。間違いなく冷たくよそよそしい神を求めていたわけではありませんでした。温かく、そばにいて、親身で、私を理解し、気にかけてくれる神を望んでいました。私の魂は神に触れよう、抱きしめよう、つかもう、しがみつこうとしていました。そのように私は自分が知らなかった神を探し始めたのです。

シェリルを通じて、私はこの自分が知らなかった神を聖書の中に見出させることを学びました。しかし、私は聖書について何も知らずただの大きな革装丁の本であることしか知りませんでした。聖書が必要だったので、ある日仕事の後、こっそりと店に入って一冊買いました。神を探していることをシェリルに知られないように、聖書を車に隠しました。一つ確かだったことは、神を見

つけるなら、一人で見つける必要があるということでした。神を探していることをシェリルに知られないように、私は毎日2時間余分で働かなければならないと伝えて、遅く帰宅することにしました。神をついに見つけることができるという希望を持ちながら、私は1日2時間を聖書に費やすことを決意しました。

神を探し始めた最初の日、仕事の後、大きな聖書を前にテーブルに座りました。聖書を開かず、ただ表紙を見つめていました。それほど分厚い本を読んだことはありませんでした。私は学習障害があり、本を読むことは得意ではありませんでした。高校を卒業するまでに、私が読んだことのある最もページ数の多い本は100ページで、それでも私にとっては大変でした。しかし今、私の前には約2000ページの本がありました。もし神を見つけるために2000ページも読む必要があるなら、どれほど困難なことか考えました。しかしそれが、救いを見つけるための人生最後のチャンスでした。残された選択肢はただ一つでした。私は聖書の中で神を探すしかありませんでした。

聖書を開こうとしていたとき、祈る必要を感じました。しかし、どう祈ればいいのかわかりませんでした。多くのユダヤの祈りを暗記していましたが、それらはすべて「Baruch Ata Adonai

Eloheinu Melech Ha Olam」(「あなたはほむべき、主、私たちの神、宇宙の王」)で始まるものでした。その祈りを何度も暗唱してきましたが、実際に神と話しているとは思ったことはありませんでした。それは私にとって宗教であり、今私は現実が必要でした。暗記した宗教的なフレーズを繰り返すことで神を冒涇したくありませんでした。私は友達として神を見つけないという心から、神に手を伸ばしていました。

したがって、暗記したユダヤの祈りを唱える代わりに、心から自分自身の祈りを考えようと思いました。私は「ああ、神」という言葉で始めました。それは私が進んだ限りでした。実際、神が存在するかどうかよくわからなかったので、私は自分自身の祈りを修正し、「ああ、神、もし神がいるなら」と言いました。一時停止して考えました。「もし神がそこにいるなら、私は何を望むのだろうか？」再び始め、言いました、「ああ、神、もし神がいるなら、助けてください。」その祈りの後、私は聖書に取りかかりました。

どこから始めるべきかわからなかったので、目次を開きました。すぐに、聖書が2つの部分に分かれていることがわかりました。1つは「旧約」と呼ばれ、もう1つは「新約」と呼ばれていました。私は「旧約」と「新約」が何を意味するのかわかりませんでした。しかし、「新約」が「旧約」の約3

分の1のサイズだとすぐに気付きました。「決まりました」と結論しました。私は小さな「新約」を好み、また「新しい」ものを望んでいました。“古い”よりも“新しい”ものを選びました。

「新約」セクションの最初の本は「マタイ」という本でした。私には明らかでした。これはイエスについての本で、すべてがイエスについてでした。この本はイエス、イエス、イエスのことばかりでした。それにより、私は分かれ道に立たされました。私には、ユダヤ人はイエスに関わらないと教えられていました。ユダヤ人として、私はイエスに関する何もかもを閉ざすように育てられました。しかし、今、私はイエスについての本を読んでいます。私は、イエスについて閉ざし続けてきた人生の扉をそのままにするか、イエスが誰であり、私を助けることができるのかを学ぶために扉を開くという難しい選択をしなければなりません。イエスについての本に心の扉を開くという決断は、非常に難しいものでした。私は助けが必要で、イエスに助けを求めることに決めました。「マタイ」の本を読みながら、私は私を神に導いてくれる言葉にしがみつこうと必死でした。しかし、シェイクスピアの古英語で書かれていたことから、神を見つけるのは思ったよりも難しいことだと気付きました。しかし、私は助けが必要で、諦めるつもりはありませんでした。日々進みながら、読んでいることを

理解しようと必死で努力しました。しかし、何も理解できませんでした。まだ暗闇の中に光はありませんでした。私の心は聖書の中の意味を理解しようと切望していました。私は相変わらず迷子のように感じていました。

そして、それが起きました!第15章で、イエスの言葉を読み、彼が私に直接話しかけているように感じました。彼が言った言葉はこうでした:

「悪意、殺意、姦淫、みだらな行い、盗み、偽証、悪口などは、心から出て来るからである。これが人を穢す。しかし、手を洗わずに食事をして、そのことは人を穢すものではない。」(マタイ 15:19-20)

「不倫と姦淫」という2つの言葉が私を引き止めました。それらの2つの言葉で、自分が再び、性的な罪にさいなまれる自分自身を見ました。私は、イエスが「これらこそが、人を穢すものです」と言ったときに、自分の穢れを感じました。また、イエスが「心から出てくる...」と言ったとき、私の性的な罪が自分の心から噴き出して、私を内面で非常に不潔にさせているのを想像しました。彼が言っていることは真実だと知っていました。私の穢れの原因は私の内部から来ていることを理解しました。

私はいつも知っていた通り、私の穢れの原因は外部からではなく、内部からであった。彼が私を指差しているのを見て、他に責める相手はいなかった。環境のせいにすることもできなかった。育てられ方を責めることもできなかった。私は自分自身だけを責めることができた。それは「私がやったんだ!」という瞬間でした。イエスの言葉が私を罪に問うものでした。彼の言葉は痛ましい事実の宣言でした。彼の言葉は私を突き止め、それが真実であることを知っていました。まるで法廷にいて、裁判官が私に言ったような気分でした。「有罪、有罪判決!」と。それは痛かったです。

私は本を閉じて自分に言いました。「彼は私を知っている。」彼は私の邪悪な心が不潔な性的な考えを噴出していることを知っている。私は心の問題を抱えていました。イエスが私の問題を正しく診断したので、今は希望の兆しがありました。もしイエスが私の問題を知っているなら、おそらく解決策も知っているはずです。そして、彼が私を助けられるなら、知りたいことがありました:何を?どのように?いつ? イエスが答えを持っているというこの希望を抱いて、私は進み続けました。マタイの書の終わりに近づくにつれ、イエスがどれほど嫌われ、裏切られ、苦しめられてゆっくりと苦痛な死に至ることに驚きました。私はがっかりし、私の穢れから救いを望んでい

た人物が今は破壊されてしまったことを感じました。

再び本を閉じ、なぜか私に救いを求める暗闇に手を伸ばしました。なぜ、なぜ、私の穢れから救済の希望を与え始めた唯一の人物がこんなに惨めに破壊されたのか、その理由を理解する助けを求めるために。それから、2年前に私のユダヤ系の叔父であるシンシナティ・ユダヤ病院の元薬剤師であるピート叔父が言ったことを思い出しました。

シェリルと私はシンシナティの彼の家での過足祭の祝賀会に参加しました。ピート叔父はハガダの本を読み終えたばかりで、それは神がエジプトでユダヤ人を絶滅から救い出したことを記述していました。叔母のメアリーは冷たい鶏のスープを作っていました（いつも冷たいのは、ハガダを読むのに時間がかかりすぎるからでした）。ピート叔父は小柄で、コカコーラの瓶底のような眼鏡をかけていました。彼は葉巻を噛むのが好きで、それで叔母のメアリーをいらいらさせることができました。家の中で一番偉いメアリー叔母は、毎朝目を覚ますとピート叔父に何を考えるべきかを伝えることがほとんどでした。それに対して、ピート叔父はメアリー叔母をいらいらさせるのが好きでした。特定の過足祭の祝賀会で、メアリー叔母がキッチンにいる間に、

ピート叔父は突然、「キリスト教徒はキリストが過足祭の子羊だと信じているのだ!」と口走りしました。

私たちの家族では、キリストやイエスの名前を口にするのはけしからぬ行為だったのではないか、と言うのはただの悪口の場合を除いてです。だから、ピート叔父はキリスト教徒がキリストが過足祭の子羊だと信じていると発表したとき、それは衝撃的でした。すぐに、キッチンからメアリー叔母が叫びました。「ピート、黙って!」そして、ピート叔父は私を見つめ、目の中に歓喜が宿ったかのように、彼女をいらいらさせる良い方法だったと言いたかったようでした。ピート叔父は、キリストが過足祭の子羊だとキリスト教徒が信じていることを言ったときに、私の心に残る種を植えたことを全く理解していませんでした。2年後、聖書を閉じたまま前に座り、なぜイエスが拷問されて死んだのかを理解しようとしていると、ピート叔父の言葉が私の心に戻ってきました。「キリストは過足祭の子羊だった。」

おそらく、ピート叔父のキリストが過足祭の子羊であるという皮肉な発言が本当かもしれないと思いました。私は過去何年にもわたり、年々聞いてきたユダヤ人であるからこそ、過足祭の歴史を見つけるために聖書に目を向けました。私は出エジプト記の12章でその歴史を読みました。

私はその記述を注意深く読みました。私は、何
度も過足祭の祝賀会に出席していながら、実際
に過足祭の意味を理解していなかったことに気
づきました。セダー、すなわちすべての順序は理
解していました。しかし、過足祭の「本当の」メッ
セージを理解していませんでした。どういうわけ
か、私は過足祭の子羊の中心的な意義とその血
の重要性を見落とし、理解していなかったのだ
です。

出エジプト記を読みながら、過足祭の夜の大惨
事を見ました。それは、どの家族の長男も死ぬ
運命にあることでした。家族がユダヤ人であろ
うとエジプト人であろ
うと、どの家の長男も死ぬこ
とになっていました。しかし、出エジプト記の過
足祭の歴史は、神が救出計画を用意しているこ
とを明らかにしました。神の救出計画は子羊で
した！神の大きな救出には、個人ごとに自分自
身の個人的な同一視、自分自身の強力なつなが
り、自分自身の決然たるつながりを持たなければ
ならないことが明確でした。子羊がいなければ
、救出もありません。子羊がいなければ、長男
には命もありません。必要なのはたったひとつ、
子羊だけです。それ以外に長男を救出する手段
はありませんでした。神は非常に明確に示しま
した、神の大きな救出には死、子羊の死が必要
であると。子羊の死を示すために、その血を家
の正面の扉の上部と2つの側柱に塗らなければ

ならないと。子羊の死も子羊の血も前扉にはないと、長男は死ななければなりません!彼らに必要なのは、ただ、扉に塗られた子羊の血が神によって長男を助けるのに十分であると信じることでだけでした。

その過足祭の子羊の血が家の前扉の周りにあるのは、裁きの神と家の中の恐れおびえた家族の間の仲介のようでした。したがって、その夜、過足祭の子羊は殺され、その血は家の前扉の上部と2つの側柱にまかれました。側柱に血が塗られ、前扉の上部から滴り落ちると、十字架の形が浮かび上がりました。それから、神の約束を読みました。

「その血はあなたがたのおる家々で、あなたがたのために、しるしとなり、わたしはその血を見て、あなたがたの所を過ぎ越すであろう。わたしがエジプトの国を撃つ時、災が臨んで、あなたがたを滅ぼすことはないであろう」(出エジプト記12:13)

はっきりと見ました。裁きと死の天使は、子羊の血がついた扉を「越えて」またはスキップするでしょう。過足祭の子羊とイエスの死について読みながら、ピート叔父の言葉が私の心に響き続けていました。「キリスト教徒はキリストが過足祭の子羊だと信じている」という言葉でした。私は新約聖書を読み続け、突然、ある一節ですべ

てが私に明確になりました。それは、初めてイエスを見たヨハネ福音書の言葉で、ヨハネは言いました：

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」(ヨハネ 1:29)

そこにありました!一つの簡単な言葉で、私自身の救出がすべて明らかになりました。すべてがうまく組み立てられていました。ピート叔父の一つの簡単な言葉で、私が穢れからの苦痛からの救済を求めていたものと、イエス、神の小羊の間のつながりがありました。私にとって、イエスは私の過足祭の子羊にならなければならなかった、私の罪と有罪を取り去るために死ぬ運命にある子羊。私にとって、これは私が探していた真実でした。これが私の救済の「何」でした。今、私は「どうやって」そして「いつ」を見つけなければなりません。どうやってイエスを私の個人的な過足祭の子羊にして、私の罪を取り去ることができるのか?そして、それは「いつ」起こるのでしょうか?

「私はまだユダヤ人でしょうか？」

ユダヤ人であることは、私自身を定義していました。私は誰であるか、自分のアイデンティティが重要でした。だから、もしイエスを私の個人的な過足祭の子羊とし、罪を取り去るために彼を受け入れたら、私はもはやユダヤ人ではなくなるのでしょうか？これは私にとってのジレンマでした。ずっと教えられてきたのは、ユダヤ人でない人々はキリスト教徒またはイスラム教徒であり、ユダヤ人は決してキリスト教徒になれないということでした。育ちながら、キリスト教徒であることはユダヤ人でなくなることを意味し、しかし、私は実際にキリスト教徒であることが何を意味するのかを知りませんでした。私は「キリスト教徒」と「ユダヤ人」という用語が相反するものであるのかどうかを知りませんでした。私はこの質問にあまり考えを巡らせていませんでした。

シンシナティでの仕事の休憩では、私は3人の非ユダヤ人の同僚と一緒に食事をするのがよくありました。アメリカでは、非ユダヤ人の圧倒的多数が自分自身をキリスト教徒と呼ぶことを知っていました。私は3人の同僚がイスラム教徒でないことを知っていました、彼らはキリスト教徒であるに違いないと考えました。したがって、「キリスト教徒であること」が何を意味するのかという私の質問に答えるために、3人の同僚が良い

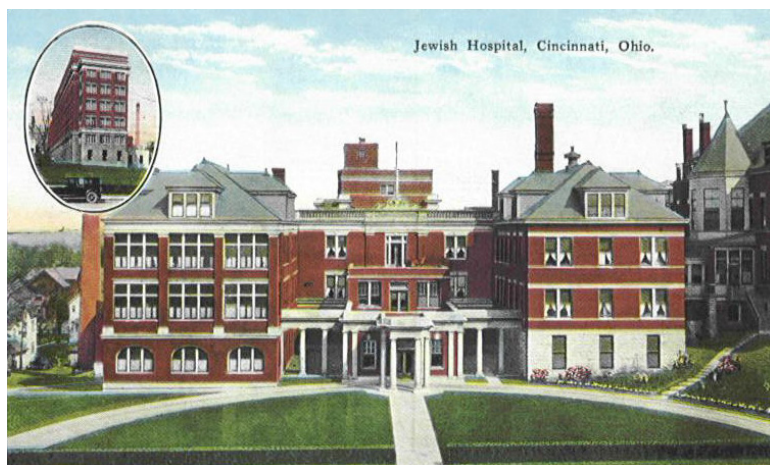
情報源になるだろうと思いました。私の同僚たちはすべて既婚の男性でした。昼食のときに静かに彼らの話を聞いていると、彼らが愛人との性的な冒険について自由に話すのを聞いて驚きました。妻が暴行されたことから、結婚に対する忠実さは私にとって非常に重要でした。しかし、彼らは妻を裏切ることについて話す際には恥ずかしい思いをしませんでした。彼らをキリスト教徒だと考えていたので、キリスト教徒が妻を裏切ってもいいのか、イエスはキリスト教徒の結婚の忠実さにどんな影響を与えるのかを知りたかったのです。これらの質問への回答は、彼らのイエス・キリストへの関係を私に伝えるでしょう。私はそれを突き止めるつもりでした。

ある日、彼らが不倫の性的な冒険について話し始めたとき、私は「キリスト教徒であること」が何を意味するのかを突き止める絶好の機会だと気付きました。彼らが不倫関係について話している最中、私は「君たち、イエス・キリストが必要だよ」と宣言しました。私が何を言っているのか理解していないことは気にしませんでした。私は、キリスト教徒であることはイエス・キリストを持つことを意味するのかを突き止めようとしていました。彼らの反応が私に明確な答えを与えました。私の発言に傷ついた彼らは、私をすぐにグループから除外しました。それが、私が彼らと一緒に昼食を共にする最後の機会でした。

彼らの強い反応から、彼らはイエス・キリストを持っておらず、持ちたくもないことがわかりました。私の「キリスト教徒」の同僚たちは、私に、キリスト教徒である人はイエス・キリストを持っていなくてもよいし、異なる言い方をすれば、キリスト教徒でない人でもイエス・キリストを持つことができることを教えてくれました。キリスト教徒であることは、イエス・キリストを持つこととは何の関係もないことを私に確認しました。私にとって、これはイエス・キリストを私の過足祭の子羊として受け入れても、私をキリスト教徒にすることはなく、ユダヤ人であることをやめさせることはないことを確認しました。要するに、私はイエス・キリストを持続し、ユダヤ人でいられるのです。

「誕生」

4月になり、シェリルが出産の時期になりました。私たちはシンシナティのユダヤ病院に行き、シェリルは全身麻酔の下に置られました。



シンシナティユダヤ病院

赤ちゃんが生まれました。シェリルはまだ鎮静下にあるままで、彼女の部屋に戻りました。私はシェリルの部屋の外で待っていたとき、アルバーツ医師が赤ちゃんを抱えてシェリルの部屋に向かっていているのを見ました。私はアルバーツ医師がシェリルの部屋に入るのを阻止しました。「いいえ、シェリルは赤ちゃんを見てはいけません」とアルバーツ医師に伝えました。彼は引き返し、シェリルは赤ちゃんを見ることはありませんでした。

病院は赤ちゃんの部屋に呼び、出生証明書に私の名前が父親として記載され、シェリルの名前が母親として記載されることを知らせてくれました。その後、看護師は私に、出生証明書の父親としての記載が私の責任であり、赤ちゃんに名前をつけることが私の役割であると説明しました。私は赤ちゃんをユダヤ教で育てることを望んだので、看護師に「彼女の名前はジュディスになります」と伝えました。

「新たな始まり」

病院を出て、太陽が私の顔に当たり、温かさを感じました。新しい結婚生活の次の新しい章が始まりました。

ついに春がやってきたのです。冬が精神的に私たちを疲れさせ、今や太陽の光が雲を破り、花々が冬の暗さを追い出していました。冬が過ぎ去ったことで、私たちは結婚生活の春にやってきたような気分でした。私たちの生活は回復期に進みました。シェリルはプロクター・アンド・ギャンブルでクーポン付きの封筒を開封する仕事を得ましたし、私はすでにヒルトン・デビスで化学の試験プラントでの仕事を持っていました。人生は続いていきます。

「カリフォルニアの前とオハイオの後」

それはもう9月で、シンシナティからの冬眠から目を覚ましました。私たちは1500ドルを節約することができ、裕福だと感じました。シェリルの両親の家に帰り、誰も赤ちゃんのことについて一言も言いませんでした。ある夜、私たちは車に荷物を詰め終え、翌朝、シェリルの両親に別れを告げて車を出発しました。サンディエゴを目指して、カリフォルニア大学サンディエゴ校で生化学の学士号を取得することを望んでいました。窓を開けて、ついにカリフォルニアへの道路に乗って、私たちはとても安心感を感じました。強姦と妊娠の秘密は安全に守られていました。私たちは過去の恐ろしい経験を忘れてしまえることを望んでいました。オハイオからカリフォルニアに向かう途中、私たちはそのすべての嫌な思い出と過去を後ろに置けると期待しました。

バックミラーを見ながら、すべてが小さくなっていくのを見ました。この大きな秘密を知っている唯一の親戚がどんどん小さくなっていくのだと思いました。強姦とその後の赤ちゃんの誕生、そして養子縁組の過去のすべての不快な思い出と記憶は、国を横断しながら私たちの前に広がっていました。

「ついに見つけた」

私は妻に、私が神を必要としていることを伝える時が来たと言いました。この新しい願望をどのように表現すべきか分からなかったのも、ただ宗教的になっていると言いました。シェリルは涙が頬を伝い始めるのを黙っていました。私は「キリスト教徒」になりたくないし、「教会」に行く気もありませんでした。私はユダヤ人であることを強調し、ユダヤ教のシナゴグに戻る必要があると言いました。シナゴグで神を見つけることを期待しました。

サンディエゴに到着したとき、新聞を手に入れ、サンディエゴの最大の改革派ユダヤ寺院、テンプル・ベス・エルを見つけました。私は電話でラビに連絡しました。私は、モーセが出エジプト記の中で書いたことを読んでいたことから話し始めました。モーセを一言でも言うと、ラビは私を中断し、実際にモーセという名前の具体的な人物がいるとは信じていないと言いました。彼は、モーセの書物はモーセのペンネームを使用して一連の著者によって書かれたと信じていると語りました。私は耳を疑いました。

私にとって、ラビは過足祭が実際には起こらなかったと言っているようでした。それは私が一生信じてきたことと真っ向から対立していました。も

しラビが言っていることが本当なら、ユダヤ人の国の起源と、ユダヤ人の神が聖書に記されているようなものではなかったことになります。

そのラビの言ったことは、私が中学校のときに別のラビが言った言葉を思い出させました。それは、マリブのユダヤキャンプヘス・クレイマーでのジュニアハイスクールのリトリートのとき、キャンプファイヤーの周りでラビに質問をする機会が与えられました。私は立ち上がり、典型的なユダヤ人にとっての難問ともいえる質問をしました。「ホロコーストの間、神はどこにいたのですか？」ラビは考えもせずすぐに答えました。「あなたは理解する必要があります、神は非常に忙しい存在で、それは神が忙しかった時期だったのです。」12歳のとき、その答えは私の神に対する興味を完全に消しました。今、神を探し求めている私は、過足祭に関与しない神を見つけることには興味がありませんでした。私は、忙しくて他のことに忙しい神を見つけることに興味はありませんでした。だから、そのラビがモーセが実在の人物でないと考えていると言ったとき、電話で「申し訳ありません、間違った番号をかけたようです」と言って電話を切りました。次はどこへ？

改革派のシナゴークがリストから外れた後、次に正統派のシナゴークに行き、ラビと話すことに決めました。再び新聞を見て、正統派ユダヤ教の

シナゴーグ、テンプル・ティフェレスを見つけました。金曜日の夜の礼拝に行きました。ラビのメッセージを注意深く聞いて、何か神を見つけるのに役立つラビが言ったことを探しました。メッセージを聞いている間、周りを見回すと、私だけがラビの言葉に固執していることに気づきました。ほとんどの人々が互いに会話を楽しんでいました。私は、神を見つける場所ではなく、社交クラブに来たような気がし始めました。

神を見つけないで去るつもりはありませんでした。ラビのメッセージのすぐ後、私はラビと個別に話すために行きました。私は「ラビ、分からないけど、イエスはメシアかもしれないと思うんです。」と尋ねました。ラビが肩を引いて私をにらみつけ、「これが最初で最後にその名前を言うことができる唯一の機会です!」と宣言したとき、私は非常に気が沈みました。説明を求めていたのに、強い叱責を受けたのです。私にとっては、ラビがイエスの名前を嫌うことは予想外ではありませんでした。ユダヤ人である私は、その名前に対する強い偏見で育てられました。

私にとって、改革派と正統派のユダヤ教を通じてイエスが神の小羊である道は閉じられていました。だから、再び新聞を見て、答えを見つける場所を探す必要がありました。私は神を見つける必要がありました!そのとき、イスラエルに関する

映画「His Land」を上映するエマニュエル・バプテスト教会があることを知りました。その教会の名前は私を魅了しました、なぜならそれは私が少年のころに通ったユダヤのシナゴグ、ビバリーヒルズのテンブルエマニュエルと同じ名前だったからです。しかし、それは教会でした。もし私がこの教会に行って、ユダヤ人として特定され、彼らの神を殺したと非難されたらどうしようと思いました。

私はユダヤ人であることを隠そうとし、静かに会場に入りました。部屋の後ろの席に座り、出口の隣に座って、誰かが私の存在に気づく前にすばやく逃げることができるようにしました。映画が終わると、すぐに退出しようと立ち上がりましたが、肩に手が触れました。誰かが誰かわからないまま振り返ると、高齢の女性が「あなたはユダヤ人ですか?」と言いました。私が恐れたとおり、私は「何?私の顔にエルサレムの地図が描かれているのですか?なぜそう言うのですか?」と応じました。彼女は私が怖がらないようにしたくて、ユダヤ人を嫌っていないこと、そして牧師の祖母がユダヤ人だったことを教えてくれました。

私が安心したのを見ると、彼女は教会のメンバーである別のユダヤ人、イヴ・ルールを紹介してくれました。イヴは私を牧師、レイ・ハーンに紹介しました。牧師と私は翌日会うことを約束しまし

た。会議で、私は出エジプト記に記されたモーセの言葉を読んでいたこと、過足祭の小羊について説明しました。ヨハネのバプテストがイエスの罪を取り去る神の過足祭の小羊として説明したことについて話しました。その時、牧師は私の言葉を遮り、「あなたはイエスにどれだけ近いのかわかりません。あなたは多くの聖書のことを信じていると言っていますが、イエスを個人的な神と救い主として受け入れたことはありますか?」と言いました。私は「イエスを受け入れる」という言葉について何を言っているのか全くわからなかったが、知りたかった。なぜなら、この「イエスを受け入れる」とは、ついに私の質問「どのようにして」イエスを私の個人的な過足祭の小羊として受け入れて、罪を取り除く答えになるか知りたかったからです。

私は牧師に、どのようにすれば、どのようにして人々はイエスを神と救い主として受け入れるのか尋ねました。彼は私に信じることと受け入れることの違いを明確にしたかったです。彼は、それは彼が私に本を差し上げると信じることと、私が実際に手を伸ばして本を自分のものにするものの違いのようだと言いました。本が贈り物だと信じるだけでは、本当に受け取ったこととは同じではありませんでした。本が彼の手にあって私の手から離れている限り、私は本を受け取っていないのです。本を受け取るには、手を伸ばし、それを

自分のものにする必要があります。この例から、私は「イエスを受け入れる」という言葉の意味が理解できました。牧師は、ヨハネの福音書で示されているものでした。

「しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」(ヨハネ1:12)

最初に、私は神に罪人であることを告げなければなりませんでした。私は牧師を見て、彼は私を知りませんが、もし知っていたら、私が神に自分が罪人であると告げることがどれほど簡単かを知っているだろうと思いました。だから、私は神に自分が罪人であることを告げることには問題ありませんでした。次に、私は神に、聖書の記述を信じることを告げなければなりませんでした。神はイエスという名前の人間になり、私が犯したすべての罪のために十字架で罰せられた、と。まあ、私は既に聖書を信じる方向に進んでいました。私はただ、イエスが神として人間になり、私のために死んだことを信じる必要がありました。牧師は次の聖句を示してくれました。

「キリストがわたしたちの罪のために死んだ」(コリントの信徒への手紙1 5:3)

それは私自身で聖書を読んでいたこと、そして叔

父ピートが言っていたことと一致していました、キリストが過足祭の小羊であるということ。

この「イエスを受け入れる」は、私が探していたもの、イエスを私の個人的な過足祭の小羊として受け入れ、罪を取り除く方法の「どのように」に聞こえました。私は興奮して、イエスを私の過足祭の小羊として受け入れる「いつ」にもたどり着いたと思いました。それを今すぐやりたかった。私は参加したいと牧師に伝えました。彼は私に、神に祈るだけでいいと言いました。

最終的に、私は単なる信仰から実際に受け入れに進むために、自分自身の一步を踏み出さなければなりませんでした。この前進の一步は非常に現実的で、私としては、ユダヤ人としてイエスの名前と存在に対するあらゆる偏見に立ち向かう前進の一步でもありました。この前進の一步は、私が神としてのイエスに対する抵抗と反逆の武器を全て捨て去る自分を見ると共に、私自身を単なる罪深い者であるトム以外の誰かではなく、神に近づいている自分を見ることで現実的でした。この前進の一步は、私がキリスト教に足を踏み入れることではありませんでした。この前進の一步は、私がクリスチャンになることではありませんでした。この前進の一步は、私が宗教に入ることではありませんでした。この前進は、私が主イエス・キリストに近づいていくことでした。信仰か

ら実際にイエスを受け入れるこの重要な一步を踏み出す決定を下しました。ユダヤ人として、この一線を越える最も難しい側面は、イエスが神であるという偏見を捨てることでした。これは私の一生にわたる根深い偏見でした。しかし、私はこの人生の中でこの地点に来ました。そして、このシンプルな祈りによって、実際に心を開き、イエスを私の神として、私の過足祭の小羊として受け入れることになります。

牧師は、私に子供のような祈りの言葉を繰り返すように指導してくれると言いました。私は最善を尽くして、心からの祈りの言葉を繰り返しました。「主イエス、私は罪人です。あなたは神であり、人間となり、私の罪のために死にました。私の罪を許してください。私の心に入り、私の神と救い主になってください。アーメン。」

その祈りから頭を上げた途端、私は2つの大きな変化を感じました。最初の変化は、私がついにここが私の居場所だと知ったことです！もはや私は迷子ではありませんでした。最終的に、イエスが私を見つけてくれたのです！

「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」(ルカ19:10)

「ついに浄化」

その祈りの後、2番目の変化は、私が最終的に浄化されたことも知ったことです。ついに清浄です！ヨーロッパでは、私は性的に穢されました。内部が穢れているという感覚は私を何年も悩ませていました。スイスでの2時間のシャワーやシェリルとの関係で手に入らなかったものは、イエスを私の心に神として受け入れると一瞬で達成されました。すべてが非常にシンプルでした。私は安息日に何をしてはいけないかを守るための一連の法律を守る必要はありませんでした。食べてはいけない食品に関する一連のコーシャールの法律を守る必要はありませんでした。浄化され、審判から免れるために必要なことは、単にイエス・キリストを私の過足祭の小羊として信じて受け入れることでした。私は出エジプト記の最初の過足祭の夜にいた人のように感じました。そのとき、神がそれほど簡単にして、初子を死から救うために必要なものは、戸口に小羊の血があることだと信じるだけで済むと言ったとき、神を信じるだけで充分でした。浄化と審判から免れるために必要なのは、イエスを受け入れることが私を浄化し、審判から私を救ってくれると信じるだけでした。私はとても幸せで、歌ってしまえる気がしました。「かつて私は穢れていたが、今は清純です！かつて私は迷子でしたが、今は自分の居場所を見つけました！」

私の簡単な祈り、できる限り最善を尽くして祈った祈りだけが、最終的に私にその浄化の泉をもたらすことになることがどれほど驚くべきことでしょうか。

「その日、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と穢れをきよめる一つの泉が開かれる」(ゼカリヤ書13:1) その浄化の泉は、私の過足祭の小羊であるイエスの愛から私に与えられました：

「イエス・キリスト...は私たちを愛し、御自分の血によって罪から解放してくださった。」(黙示録1:5)

「許しを与えられ、許すために」

1970年9月のその日は、私にとって新しい人生が始まった日でした！それは、罪悪感と恥ずかしさが私を脅かす声を失った日でした。それは、私が探していた友達を見つけた日でした。イエスを私の心に受け入れたとき、神は私の友達になりました。イエスを私の心に受け入れたとき、聖書は神の声、私の友達になりました。私は聖書の言葉を大切にしました。それには私の罪が神と私の間に立ちほだかることはないと書かれていました：

「あなたは私のすべての罪をあなたの背後に投げ捨てました。」(イザヤ書38:17)

「私は彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い出しません。」(エレミヤ書31:34)

「東が西から遠いように、彼は私たちの過失を遠ざけました。」(詩篇103:12)

「あなたは彼らのすべての罪を海の底に投げ込むでしょう。」(ミカ書7:19)

死を恐れることはもうありませんでした。イエスは私の罪のために死に、私の罪の審判から私を救うための私の過足祭の小羊となりました

た。1970年9月のその日、私は単なるイエス・キリストが神であることを信じるだけでなく、イエス・キリストを神として私の心に受け入れ、私が赦されていることを知りました。

しかし、まだ1つの問題に直面していました。1つの問題が私を悩ませ続けていました。もし神が私を赦してくださったのなら、シェリーを襲った男に対する憎しみを心に抱き続けることはできるのでしょうか？私を悩ませたのは、「神が私を赦してくださったのなら、シェリーを襲った男に対して憎悪を抱き続けることができるのだろうか？」という問いでした。私は、もはやその男を憎み、死んでしまえばいいと思うことはできないと感じました。復讐を望むこともできなかったのです。私は彼を赦さなければならなかったのです！しかし、どのようにして、その名前さえ知らない男を完全に赦すことができるのでしょうか。私は神に、その男を赦す方法を尋ねました。それから、私は過去と私自身の性的汚染を思い起こし、神が私をどれだけ赦してくれたかを考え始めました。私は過去を振り返ると、シェリーを性的に襲った男の立場に立つことができました。過去を振り返ると、私がいかに有罪であり、その男を非難できなくなりました。

私は自分がその男に責められていることに気づきました。私は彼と変わらないのです。神が私を

どれだけ赦してくれたかを思い起こしたことが、私が彼を赦すことを可能にしました。そして、私は彼を赦しました。私は、私の罪から得た救済について考えました。私は神を私の心に受け入れたとき、イエスを神として受け入れたときに得た救済について考えました。それが、私がその男にイエスを私と同じように受け入れさせ、彼の罪から救済を得るように祈るきっかけとなりました。

ついに、1970年9月のその日、私の壊れた人生が再構築され、見つかり、浄められる人生になりました。すべては、私がイエスに祈り、彼を私の神と私の過足祭の小羊として受け入れたときに起こりました。今、私はそれを主イエス・キリストと呼び、それを言うとき、私はイエスが神であることを意味します。

「生きる目的の再構築」

神を見つけ、神もまた私を見つけました。しかし、「偉大な救出」の話を伝えることができなかったのは、「偉大な秘密」が残っていたからです。それはシェリルの強姦と妊娠でした。

カリフォルニア大学サンディエゴ校に入学しました。シェリルは秘書の仕事を見つけ、私を支えてくれました。私は生化学の学士号を取得しました。4年間、医学研究に従事しました。

私の仕事は要求が高かったです。長時間働いており、シェリルと一緒に過ごすことができないことが寂しかったです。そこで、1976年にたった130ドルでバイオテクノロジー会社、スキャン抗体研究室を設立しました。今でもtom.cantor@scantibodies.comで私に連絡できます。私の目標は、シェリルに近くで働くことでした。後に、私たちはカリフォルニア州レイクサイドの牧場に移り、家族は3人の息子を迎え入れながら10年間そこで過ごし、ビジネスを拡大し続けました。

その牧場で、診断テストのために抗体を製造するために300匹のヤギを接種しました。ヤギたちは24時間世話が必要で、大変な仕事でした。

私たちの3人の息子は、家の自営業で働きまし

た。家はまるでグランドセントラル駅のようでした。息子たちの教育のため、妻は14年間彼らを自宅で学ばせました。ビジネスは徐々に成長し、24時間営業の自宅で働く48人の従業員を抱えるようになりました。ビジネスを世話しなければなりませんでした。これらはビジネスを最優先にする時代で、それはつまり「ビジネスが最優先」を意味していました。これは私の「ビジネス」を最優先にすることを意味しました！

2002年、クエスト診断はスキャン抗体研究室を特許侵害で訴えました。私たちの弁護士に訴訟をどれくらいかけるか尋ねました。彼らは200万～300万ドル（実際には800万ドルかかりました）と言いました。ビジネスを拡大していたこの段階では、テカテ、メキシコに新しい生産施設への投資を始め、銀行に800万ドルを提供するために頼っていました。私たちの口座には1,000万ドルしかありませんでした。800万ドルの法的費用とテカテでの800万ドルの建設費を賄うためには、1500万ドルの不足がありました。問題は、銀行が訴訟を起こされた会社に融資することに興味を持っていなかったことでした。裁判は5年間続きました。最終的に私たちは勝ちました。裁判の間、ビジネスに集中できず、訴訟が生存の問題であったため、私たちは浸食されました。その後、奇跡が起きました！訴訟の当時、私たちはわずか100万ドルしか持っていない約25年のビジ

ネスでした。5年間の裁判の間、誰も店に気を配っていませんでした。破産すべきだったはずです。しかし、逆のことが起こりました。その5年間で、ビジネスから1500万ドルの利益が生み出されました。まるで1500万ドルが突然私たちの上に降り注いだかのようでした。その1500万ドルの利益で、法的費用とテカテでの新しい建設費用を支払うのに十分でした。私たちはその後も借金をしませんでした。

その1500万ドルの予想外の利益は、私にとって神との話さないわけにはいきませんでした。私は神に言いました。「神様、あなたがビジネスの世話をしてくれましたね。」その後、私に人生の原則となる考えが浮かびました。まるで神が私に言っているかのようでした。「はい、私はあなたのビジネスの世話をしました。あなたは私のビジネスの世話をして、私はあなたのビジネスの世話をします。」私は神様に「約束します!」と答えました。私は神様のビジネスを世話し始め、もう自分のビジネスだけに焦点を当てることはありませんでした。その前は、お金に焦点を合わせていました。仕入れ先を見て、「どうしたらより低コストで購入できるか?」と尋ねたり、顧客を見て「どうしたらより高い価格で販売できるか?」と尋ねたりしていました。しかし、今では人々を見て、次のように尋ねます。「彼はイエスを個人的な過越の小羊として受け入れていますか?」もし受け入れ

ていない場合、私は彼にイエスを個人的な過越の小羊として受け入れるよう奨励しようとしています。もし受け入れている場合、私は彼の神との歩みを励まそうとしています。

しかし、人々を助けるには、神がどのように私を助けたかを人々に伝える必要がありました。それは、神が私をどのような問題から救ってくれたかを人々に伝える必要があることを意味します。しかし、私はシェリルの強姦と妊娠の「大きな秘密」を隠していたため、それができませんでした。完全に透明でいることはできませんでした。私は本物ではありませんでした。この「大きな秘密」を隠していたことが、他の人を助ける障害となりました。その後、ある日、すべてが変わりました！

「23andMe」と大いなる発見

2019年にそれは起こりました！私たちの末の息子は、「23andMe」で自分の遺伝子構造を検査してもらうことにしました。彼は異父妹がいることを知らされ、彼女の連絡先と写真を受け取りました。彼は私に電話して、どういう意味か尋ねました。私はすぐに3人の息子たちと別々に面会し、彼らの母親が襲われて妊娠したこと、中絶ではなく養子縁組が唯一の行動であると判断したことを説明しました。次に、私はさらに、私がイエスを私の過越の子羊にしようと思った本当の経緯は、私の妻、つまり彼らの母親が襲われて妊娠したことを彼らに説明しました。私の息子たちは、私の本当の人生の歴史を最初に知った人たちでした。彼らに歴史全体を、透明かつ現実的に伝えることができ、とても気持ちがよかったです。私の人生史の生きた証拠は、彼らに異父姉妹がいたという現実でした。

私はまだこの「大暴露」を計画していなかったにもかかわらず、50年間の隠蔽、逃避、否定を経て、秘密の暗闇から抜け出して透明性の光の中へ入ることができたことにとても感謝しました。神が私の壊れた人生を取り除き、主イエス・キリストを中心としてそれを再構築されたとき、私はついに私を何から救ってくださったのかを知ることができました。私は今、神がどのようにして

私を救ってくださったのか、真実をすべて自由に話することができます。

「汚れて清められるために」

私の人生は迷いと穢れでできた歴史です。私は壊れた家庭から来て迷子になりました。学校から追放され、教育からも迷子になりました。親との親しい関係も、彼らの複数の結婚によって迷子になりました。ヨーロッパで性的に穢されたとき、私の道徳も失われました。最後に、シェリルが襲われたとき、私は希望もなく迷子になりました。

マイアミ大学図書館に入った夜、私は自分とは異なる人を探していました。私は純粹で清らかで無垢な人を探していました。彼女との関係を通じて、ついに自身の不純さ、道徳的欠如、穢れを清めてくれる人に属することができると期待していました。後に、彼女と結婚し、彼女の純潔、清らかさ、無垢さが私を何らかの方法で変えてくれることを楽しみにしていました。

しかし、シェリルが襲われ、妊娠していることを聞いたとき、私は打ちのめされました。シェリルはもはや純粹で清らかで無垢ではありませんでした。シェリルの強姦は私の足元を引き寄せました。シェリルはもはや私の浄化の道ではありませんでした。私は満たされるために彼女を仰ぎ見ました。彼女を神格化して、台座に置いていました。彼女は私の救世主になり、私を不潔さ、罪

悪感、恥辱から引き上げてくれると思っていました。しかし、彼女の口から彼女の純潔が奪われ、妊娠していることを知ったとき、私の偶像は粉々に砕けました。不浄で、彼女はもはや私より優れていませんでした。彼女はもう私を不浄から救えなくなりました。

シェリルが襲われ、妊娠したことでさらに悪かったのは、私は自身の性的冒瀆を思い出さなければならなかったことです。彼女の妊娠は、私自身の行為と冒瀆の鮮明な思い出でした。

シェリルが性的に侵害され、妊娠していることを私に告げたとき、私は急降下して、負の渦に落ちました。最終的に、シンシナティの寒い冬の中、シェリルの妊娠の8か月目に、私はどん底に達しました。私は助けを切望していました。頼る場所がない中、私は神に手を差し伸べ、過越の子羊の神に頼りました。その破滅的な状態で、聖書からイエス・キリストの真の姿を見出し、希望を見つけました。

私の人生で最も重要な決断をしたのは1970年のことでした。その決断で、私は自分自身を、イエスが神である真理の下に曲げていると感じました：

「イエスは彼らに言われた、よくよくあなたがたに言う、アブラハムがあった先に、わたしはある」

(ヨハネ8:58)

私は聖書を通じて彼に語りかけてほしかった。彼が私の人生の指南者であることを望んでいました。それは彼が私の人生を再構築する過程でした。私はもはや過去の記憶に苦しむことはなく、将来を恐れることもありません。私は罪、恥、絶望の泥沼から引き上げられました。私は堅固な岩に立てられました：主イエス・キリストです。

「主はわたしを滅びの穴から、泥の沼から引きあげて、わたしの足を岩の上におき、わたしの歩みをたしかにされた。」(詩篇40:2)

第2部：再建Rebuilt

今、あなたは私がどのように迷子になり、穢れ、壊れていたかを知っています。そして、主イエス・キリストを心に迎え入れ、過越の子羊として神を受け入れた後、どのように見つかり、清められたかも知っています。再構築される中で、神は私に人生のモットーを授けました：「あなたが私の事を心配するなら、私があなたの事を心配する。」神の事業は人々です。私が神の事業をどう大切にするかを説明するために、2つの実話をご紹介します。

シモン・ワッサーマン

最初の実話は、シモン・ワッサーマンについてで、彼の生涯が私に大きな感銘を与え、彼のようにになりたいと思わせました。「神の事業を大切にする」ということは、私にとって、シモン・ワッサーマンのような人になったことを意味します。彼は人々を救うために大きなリスクを冒した男でした。

私にはエルサレムに住む親しい友人、アヴィとタミがいます。タミの父の名前はシモン・ワッサーマンでした。シモン・ワッサーマンは1910年にドイツのベルリンに生まれました。シモンの父は、私の祖父がバージニア州ピーターズバーグでショヘット（ユダヤ人の屠殺者）だったように、彼もショヘットでした。シモンには兄弟と2人の姉妹がいて、家族はベルリンで幸せなユダヤ人の生活を楽しんでいました。

当時のベルリンは、芸術、音楽、カバレー、文学、ビジネス、科学の大きな世界の中心の1つでした。それは、壮大な建物、公園、川、湖、そして「ウンター・デン・リンデン・シュトラッセ」などの並木道がある美しい都市でした。ワッサーマン家にとって、シモンの父がベルリンの繁栄するユダヤ共同体で尊敬される地位を楽しんでおり、生活は非常に快適でした。シモンは背が高く、金髪と

青い目で、ユダヤ人には見えませんでした。シモンが成長するにつれて、ユダヤ人の友達だけでなく、ドイツ人の友達もいました。

そして、シモンが20歳のとき、1930年に、シモンの姉妹でユダヤ人シオニストと結婚した者が、パレスチナに引っ越すことを発表し、家族を驚かせました。当時、文明化の高いベルリンから未開発で危険なパレスチナへの移動は奇妙で、非常に異質な非適合者だけが行うものでした。一方、シモンは新興政治家アドルフ・ヒトラーを注意深く見始めました。シモンはヒトラーの著書「我が闘争」を読み、ヒトラーの反ユダヤ主義的な意図を理解していました。シモンはアドルフ・ヒトラーがユダヤ人にとって非常に危険であると確信しました。綿密に考慮した結果、シモンはドイツを去り、姉妹と彼女の夫にパレスチナで合流することを決意しました。

したがって、1932年に、シモンはイギリス政府にパレスチナへの移住許可を申請しました。イギリス政府はシモンに対して、パレスチナには十分なユダヤ人がいて、もう誰にも移住許可を出さないと通知しました。しかし、パレスチナには新しいエレベーター技術があり、エレベーター技術者が不足していました。これはつまり、ユダヤ人がエレベーター技術者であれば、パレスチナへの移住許可が与えられることを意味しました。

したがって、1932年に、シモン・ワッサーマンはベルリン工科大学で1年間のエレベーター技術者コースに登録しました。最終的に、1933年に、エレベーター技術者の証明書を手に入れたシモン・ワッサーマンは、イギリス政府からパレスチナへの移住許可を受けました（1933年はヒトラーが首相として権力を掌握した年でもありました）。

パレスチナでは、シモンにとって生活は充実しており、ユダヤ人は国土を創るビジョンに満ちていました。一方、タミの母親は美しく、ラトビア出身で、パレスチナへの移住を意図してやって来ました。しかし、国境でイギリス当局に大金を巻き上げられ、3か月以内に国を去らない場合、お金を没収され、不法滞在者として追われることを告げられました。滞在を望んだタミの母親は、国に留まるために便宜結婚を承諾したイエメン系ユダヤ人の男性を見つけました。

ある日、テルアビブのビーチで、シモンはタミの母親と出会い、お互いに恋に落ちました。彼らは旧イエメン系ユダヤ人のもとに離婚を頼みましたが、そのユダヤ人は拒否し、タミに恋をしてしまったと説明しました。最終的に、離婚を認めさせ、タミの父と母は結婚しました。若く幸せなカップルは、ユダヤの故郷で共に生活を築きました。しかし、ユダヤ人全般と同様に、ヒトラーによ

るユダヤ人抹殺の進行が止まることなく進行する中、反ユダヤ主義の不安な兆候に注意を払っていました。1938年11月には、恐ろしい「水晶の夜」が訪れ、ドイツ全土でユダヤの店舗の窓が割られ、ユダヤの家やアパートが破壊され、シナゴグが取り壊され、火を放たれました。多くのユダヤ人が逮捕され、いく人が殴打され、いく人が殺されました。

1939年までに、世界中がドイツのユダヤ人が夜中に自宅から連れ去られ、二度と姿を現さないことを知っていました。恐ろしい収容所でのユダヤ人の大量虐殺に関する目撃証言がありました。

その同じ年、1939年、シモン・ワッサーマンはベルリンから手紙を受け取りました。手紙を開けると、以前のドイツの友人のひとりから来たことに驚かされました。手紙には次のように書かれていました。

「親愛なるシモン、私はゲシュタポと親衛隊で高い地位に上り詰め、今、殺害予定のユダヤ人のリストを見えています。あなたの母、父、姉妹、兄弟がそのリストに載っています。シモン、あなたは私の親友だから、あなたとあなたの家族のために頭を張ります。この手紙の2ページ目には2週間の通行証があります。この通行証を使え

ば、ドイツに戻り、ベルリンに戻り、自宅に戻ることが出来ます。この通行証を使えば、あなたはドイツを出て、父、母、姉妹、兄弟を連れて行くことができ、彼らを生かすことができます。」

シモンはこの手紙を妻や友人に見せました。彼らは、彼がドイツに戻るなんて考えるだけでも正気を失っていると言いました。手紙は罠であり、彼がドイツに到着すると通行証は取り上げられるだろうと主張しました。その後、彼はどのようなのでしょうか？彼はただのユダヤ人で、死の収容所への途中にあるだけでしょう。彼らはシモンに、自分の魂をヒトラーのゲシュタポと親衛隊に売った者には信用できないと説明し、彼らこそがユダヤ人を破壊している者であると言いました。彼らはシモンに「獅子の口に入るべきではない」と懇願しました。

シモンはこれらの考えと葛藤しましたが、家族の絶望的な状況が彼の心を苦しめました。シモンは、どんな犠牲を払おうとも、他に選択肢はないと決断しました。彼は、家族を救出しない場合、自分自身と共に生きていくことができないと結論づけました。彼は、家族を救うために試みない限り、自分自身を許すことはできないと考えました。彼は、家族を救う試みで亡くなった場合、ベルリンの家族と同じ末路を迎えることになるだろうと思いました。ただ、彼らを救おうとしなけれ

ばならないということを知っていました。

シモンはパレスチナからドイツに向かいました。ドイツに入国すると、同胞のユダヤ人が侮蔑されるように扱われているのを見て、彼は衝撃を受けました。通行証はシモンを保護し、家族の家に帰ることが許されました。彼が到着すると、家族に手紙を見せ、来た理由を説明しました。彼の家族は彼に何と言ったのでしょうか？彼らは、「シモン、私たちはドイツ人です！パレスチナ？シモン、あなたは正気ですか？パレスチナは危険です。」

「パレスチナにはアラブ人がいて、弾丸が飛び交っているし、汚いですよ。ここベルリンはどれほど美しいか見てください！私たちが美しいこの都市を、砂、ほこり、泥、沼地、そしてマラリアのために捨てるつもりですか？シモン、私たちの家や財産の美しさを見てください！これらすべてを捨てるつもりですか？この手紙は、あなたのいわゆる「友人」が実際には泥棒であるという仕掛けに過ぎません。私たちの財産すべてを放棄するのは恐ろしい犠牲です。そんな愚かなことを言わないでください、シモン - 私たちはドイツ人です。」

シモンは再び手紙を見せましたが、彼らは家と財産を奪われるだけのトリックだと繰り返ししました。シモンは収容所や大量虐殺の報告を伝え、

彼らは「そんなのは噂だ、シモン。あなたはそれらの収容所を実際に見たのか？いずれの大量虐殺も見たのか？ドイツは世界一の文明国です。そんなばかげたことを言わないでください。」

シモンは家族にアドルフ・ヒトラーを考えてほしいと懇願しましたが、彼らは「ヒトラー？ 彼は狂人です。彼は暗殺されるでしょう。彼は打倒されるか、投票で罷免されるでしょう。彼は一時的な問題です。」と返答しました。シモンは2週間にわたり家族を説得しましたが、最終的に手ぶらでドイツを去らざるを得ませんでした。彼の家族は全員命を奪われました。私は他の人を救うために、どれほどの犠牲を払ってもよいとして、シモン・ワッサーマンのように再構築されました。

ラリー・ラスト

もう一つの実話はラリー・ラストについてで、私にとって「神の事業を大切にする」とは、私の見守る中でラリー・ラストに起きたことが二度と繰り返されないように誓ったことです。

ラリー・ラストは、私たちの牧場の近所に住む人で、彼の物語は人生で最も重要な必要性を示しています：個人的な過越の子羊と神としてのイエスを選ぶ決定を遅らせない必要性です。

「見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。」

(コリント人への手紙Ⅱ 6:2)

ラリー・ラストは退役海軍軍人で、私の親しい友人でした。私は何度もラリーに神について話そうと試みましたが、彼は何度も私を拒絶しました。私はラリーについて神に話そうとするのを諦めました。しかし、その後、ラリーは前立腺がんにかかりました。

彼がサンディエゴのバルボアパークにある海軍病院にいる間、私はラリーを訪問しようと決意しました。私は手に大きな黒い聖書を持って病院に向かいました。病院の地下にあるがんフロアに到着すると、ドアに現れた途端、ラリーが私に

向かって叫び始めました。「いや、神はいらない！聖書もいない！ここから出て行け！」それはひどい場面で、私はただ「わかった、ラリー。わかった。帰るよ。」と言うだけでした。私はラリーが冷静になるのを数日待つことに決め、次に聖書なしで再び訪れることにしました。

後に、私はがんフロアに戻り、ラリーは自分の部屋にいませんでした。そこで、看護師に尋ねました。「ラリーはどこですか？」看護師は目を細めて私を見て、「誰が知りたいの？」と言いました。彼女の質問の仕方が奇妙だと思いました。私は「トム」と答えました。看護師は私に言いました、「ああ、あなたがトムなのね。」私は「そうだよ」と言いました。看護師はそれから私に言いました、「さて、教えてあげましょう、トムさん。ラリー・ラストは昨夜亡くなりました。しかし、夜通しラリーは叫んでいました。『トム、トム。トムはどこだ？トムを連れてきて。トムを連れてきて』と。」私はただ振り向いて去りました。私は、人々に人生で見つけることができる最も偉大な宝物について話すことを決してあきらめないと誓いました。そして、彼らにその宝物を個人的な過越の子羊として選ぶ必要性を訴え続けることを誓いました。

「一人の男が、道に迷い、穢れた存在から見つかり清められた存在に変わっていった旅への誘い...」

「私の名前はトム・キャンターです。私はスキャンティバディーズ・ラボラトリーズの創設者兼社長です。1976年にはわずか130ドルの投資と1台の車しかなかった小さなガレージから、現在では800人のチームメンバーと世界中での活動を持つ企業になりました。私はどのように生まれ変わったかをお話したいと思います。」



この本の最初の段落では、トム・キャンターの自伝が紹介されています。この本は、彼が道に迷い、穢れた存在から見つかり清められた存在に変わる過程の記録です。トムはリトアニア系ラビのカントロヴィッチ一族の孫でした。彼の両親はユダヤ人で、父はビバリーヒルズで著名な産婦人科医で、母はハリウッドの有名人たちに仕えていました。専門的には輝かしい存在であった彼の両親でしたが、結婚生活には適していませんでした。父は5

回、母は3回結婚しました。トムは15歳の時に、安定した家庭と自宅を夢見ていました。

学校から追放された後、トムはスイスの高校で卒業証書を取得しました。しかし、ヨーロッパに滞在中、道徳的な線を越え、穢れの中に身を投じてしまいました。

罪悪感と恥ずかしさから逃れるため、彼は清純で健康な女性と関係を持つことを選びました。しかし、結婚の申し込みをした時に、彼の婚約者が襲われて妊娠していたことを知り、がっかりと打撃を受けました。トムは今、自身の個人的な旅に参加するよう皆様に招待します。彼の道に迷い、穢れた存在から見つかり清められた存在に変わる過程を共に体験しましょう!

